

# 講習會に於ける質疑應答

——速記——

應答者 倉 橋 惣 三

質疑應答云ふ事を昨年から始めて見まして本年もやつて見たのでありますが、本來は此處で御質問が出まして、それに對して私云ふよりも、皆さんの間で色々御意見が出て、喧嘩でも起つたら私が仲裁する。斯う云つた様な事で行き度いのです。で大勢さんでありますから、此處でお話の糸口を切ります爲に、失禮でありましたが、質問用紙云つた様なものをお分ちしておいた。所が餘<sup>ア</sup>まりたんご集つて居りませぬ。意見なら澤山あるが質問なんかない、云ふ事だらうと思ひます。

この質疑を基にして此處でお話を發展させて行きますから何うかそれに關しての御意見を仰有つて頂き度いと思ひます。別に名簿の様な或は番號云つた様なものが本年は用意してありませぬので誰方云つて此方から名指して御意見を伺ふ事が出来ませぬから、進んで何か仰有つて頂き度いと思ひます。

一番始めに大變に偉い問題が出て居ります。これは大塚喜一先生から出て居ります。

「保姆の修養並びに研究が醇化向上し行く途中の記録として保育日誌を如何に活用すべきか」斯う云ふ問題でありまして、大塚先生が保姆養成所の先生でありますから、保姆の修養並びに研究が醇化向上して行く爲に斯う云ふ問題をお出しになつたのだらうと思ひます。これに色々のお話がありますが、大塚さん

一寸御説明下さいませぬか。

（大塚）この問題に就て質問の趣旨を解り易く表現するのが難しいので……質問用紙に私の何う云ふ氣持でお訊ねして居るのか、ミ云ふ事の説明を、書かして頂きました。それを基にしてお話下さつたら大變結構に思ひます。

（應答者）それを仰有つて下さいませぬか。

（大塚）この保育ミ云ふものは一面から研究致しますミ、日誌のつけ方、ミ云ふ事になつて、欄を何う云ふ風に分けるか、或は豫定ミ實際を何うするミか、時間割を、項目を何うするミか、日誌のつけ方の問題になるだらうと思ひます。

併し今回御訊ね致します事は……要點は、其處ではないので、保姆の生活が日誌に表現されて行く。そのもこの日誌に書く迄の生活ミ云ふ點を、もミにしてお訊ねして居るのです。その生活を如何にすべきか、ミ云ふ事が先決問題ミ云ふ事になりますけれども……その生活を如何にすべきか、ミ云ふ事は普斷倉橋先生から講習の度毎に懇々ミお話を頂いて居るので……それを出發點ミして、さてさう云ふ風に實行して行く標準、ミ云ひますが、一步／＼進んで行く、完成の途中になる様なものミして、日誌をつけて行くべき日誌の書方、ミ云ふよりは、日誌をつける態度、氣持を何う云ふ風にしたら、吾々の生活が本當に向上して行くか、ミ云ふ事をお訊ねしたい。日誌のつけ方、ミ云ふ事になりますミ、色々ありまして、その幼稚園なり、それ／＼の幼稚園によつて、場合が非常に違ふだらうと思ひます。それを何う云ふ形がいゝミ云ふ事になるミ、大勢の皆さんにお話するのは向かないと思ひますが、さう云ふ様な事でなしに、日記をつける、ミ云ふ態度ですね。これはずつミ前から問題にして居つて、郷里の幼稚園に建議案を出した覺えがあります。僕ミしては前からの問題であるのですが、その後にあの、倉橋先生が「幼児の教育」の巻頭言に「子供の歸つた後」で一日の反省の必要なる事をお書きになつたのを御記憶であらうと思ひます。あれを讀まして頂きましてから日誌の善用を、必要を、痛感致して

居つたのであります。それでお訊ねしたい、ミ云ふ氣持が強く起つて居ります。さう云ふ意味で無論平生からつけておいでになりませうけれどもその日誌をつける迄に至るその努力より、つける事につけない事によつて、自分の生活の醇化向上、ミ云ふ事に非常に強い影響を及ぼして居る、その日誌のつけ様も宜しきを得れば、自分の生活の醇化向上に非常にたすけになると思ひますが、その宜しきを得るか、ミ云ふ事、何うすれば宜しきを得るか、ミ云ふ事を説明して頂き度い。併しこれは保育に限らず、日常生活に於ても僕等もよくあるのであります。忙しい時は忙しい時程、先へへ進んで行きませう。その忙しい時に日誌を書いてこそ、例へば文は僅かでも、潑刺して居る。いき／＼した記録になつて、後で見ても、その時を回想して非常に愉快だ、ミ云ふ事になりませうが、その時程、問題になる。こんな時程、必要だ、閑な時に書いた記録は、書くのは長く書いてあつても、面白くない。忙しい時の心境は、今迄は變つた氣持が湧いて來ますから、それで氣に入る様に表現するに時間を要します、忙しい生活の中から、明日の事、先へ進んで行くのです。若しさう云ふ同じ御苦心をもつていらつしやる方がお一人でもお二人でもありましたら、一つの氣をつける道になるだらうと思ひます。共に語り合ふ事もよいと……。

(應答者) 保育日誌を全然御つけにならない方がありますが、手を上げて下さいまし。勇敢につけない人……

保育日誌ミ云ふものは私の考へでは尠くも二色ありませうね。二色あつても四色あつても五色あつてもいゝ譯ですが、大分けて二色、一つは公開的保育日誌です、公開的ミ云ひますが、公的ミ云つた方がいゝと思ひます。幼稚園に保育日誌ミ云ふものがありますのはこれは幼稚園ミ云ふ公的な活動で……幼稚園ミ云ふものは申す迄もなく官立であらうとも私立であらうとも公立的な一つの施設でありまして、人の子供を集めて法規に従つてやつて居りますミ、其處にその公けの教育機關として毎日を何う云ふ風にやつて來たか、ミ云ふ事はこれは記録しておかなければならぬものであるのです。

自分の家の家庭教育を母親が何うしたか、云ふ事はこれは別に日記をつけておかねばならぬ事ではありませぬが、幼稚園云ふ場合はさうではないのであります。それをもう少し詳しく申して見ますれば、「あなたは幼稚園でこの一年ぼやぼやしてたじやないか」云々の假に人に云はれた時に「ぼやぼやして居りませぬ。この通りちやんこやつて居ります」云ふ事は何處かに記録されて居なければならぬのです。その意味で人に公けに見せる事の出来るもの、云ふ意味で、公開云ふ開くといふ事を入れて、公開的云ひましたが、斯う云ふものが幼稚園になくはなりません。私立の幼稚園なんかでも餘りにも氣分的な、斯う云ふ事で終始して居りまして、さう云つた公的の事務的な要素が缺けて居る處がありますれば、これは是非つけておおきになるべきものであると思ひます。公立ならば何時視學が來て見しても、市長なり知事が來て見しても、はつきり見せる事の出来る保育日誌が出來て居なければならぬ事は申す迄もありません。或は校長なり園長なりが見せて下さい云ひましたら見せる事の出来る保育日誌が各組になければならぬ。これも當然であります。これは幼稚園云ふものに存すべき一つの記録でありまして、これが保育日誌の第一種であります、但しこの保育日誌はさう云ふ意味の謂はゞ公けの機關としての形式的な意義をもつて居るものでありますから、まあ凡ての形式的な仕事と同じ様な工合に斯う最小限度で許されるのである。保育日誌は何月何日より始め何月何日に終るこ、その中でした事を書くし、或は豫定がありますれば、豫定欄に豫定が書いてあつたら、實行欄に「豫定の通り」でも宜しい。これは云ふ迄もなく日誌でありますから、日々につけておくので毎日規則的に機械的に行つていゝ程、さう云ふものは簡単に要領がつけてあればいいのであります。

保育日誌のもう一つはこれは保姆さんが御自分の爲におつけになるので、必ずしも公開する事を目的とさせぬのみならず、その日誌の性質云ふものが公的なものでありませぬ。つけてもつけなくても宜しいのです。今申しました第一種

の保育日誌はつけなければならぬものであるが、第二種のはつけてもつけなくてもいいものであります。さう云ふ性質のものでありますから、保母さん御自身にまつてはさう役に立つ様につける事も難しいし、つけなくてもいいものでありませう。第一種の方は、この第一種の方に、例へば視學なり、父兄なりに「見せて呉れ」云はれた時に見せられる様な……：この第一種のに「本日も又やり損なへり。思へば憂鬱である」云ふ様な事ばかり書いて居つたら、それは何の事か解らなくなつて了ふのでありますから、まあそつちはなんですね。餘り所謂反省的な態度、反省的な意味合ひをもたないで書いておく。所が片方の方のは御自分の爲ですから、御自分の都合のいゝ様におつけになつたらいゝと思ひます。保育日誌云ふ言葉は多分その第一種の方を云ふのだらうと思ひます——幼稚園のテクニク云ひまして、術語云ひまして。片一方の方は御自身の日々の保育日誌だと思つておつけになつてもいいと思ひます。これははつきり區別しておきませうと思ひます。大塚さんの御質問はそのまあ第二の方です。大塚さんの方では「第一種は視學なんかに見せるものか」云つていらつしやるかも知れませぬが、公的機關としては必要なのであります。

第二種は玉手箱に入れて毎日鍵をかけておおきになつても宜しい。これを何う書くか云ふ事に就てはさうも私、そのかう云ふ日記をつけ方云ふ風なものをちやんち形を申上げる程の研究もして居りませぬ。第一自分の日誌ですから多分その人の個性が現はれまして、丹念にお書きになる方もありませうし、要點をお書きになる方もありませうし、毎日お書きになる方もありませうし、一日おきにお書きになる方もありませうし、毎年學年の始めに一週間だけ、後は書かない、云ふ個性の方もありませうし、何處の日記を開けて見ても「今日からは日記を書かうと思ふ」云ふ事ばかり書いてある書方もありませうし、それは色々で宜しいと思ひます。唯その内容に就ては今の所謂公的保育日誌の場合は少し詳しく書きましても、子供の事を書く、さの子供が斯うしたとかあゝしたとか、子供の事を書く。これはこれでいいのです。幼稚

園の公開する責任は子供の方にあるのでありますから。所で御自身の爲にお書きになる方の事は自分の事を書く。保姆さんの方の事を書く、子供の方の事を詳しく書きますと、一種の兒童研究の様なものになります。イギリスに……私餘アシヤりそんな本たんに知りませぬが、私が一つ……「フリーキンダーガルテンの日記」云ふものがありまして、幼児の事が詳しく書いてある。此處の保姆の修養並びに研究の醇化向上し行く努力の記録、云ふ事になつて來ますと、先生の方を詳しくおつけになるのだと思ひます。

まあそのおつけになり方は何う云ふ風に書くか云ふ事は云へないと思ひますが、日記云ふものはさう云ふ意味でつけた時には、矢ッ張小遣帳と同じ事で月々とか年に一度とかそれをその決算しなくちやならぬ譯であります。小遣帳を金銭出納帳につけます時に毎日つけて、漏れなく書いてあるけれども、何處にも決算がなかつたならば、これは何にもならない。決算してその意味が達して來るのであります。其處で斯う云ふ自己の日誌云ふものを役立てようと思へばその決算をしなければならぬ。失敗いくつ、成功いくつ、それでトン／＼云つた様な工合で決算する事も出來ませぬから、其處で何う云ふ風に決算するか、云ふと多分自分の失敗が澤山出て居りませうから、その失敗を分類する云ふと喧しくなりますが、その失敗の性質に就て大體の傾きを見るに自分の保育の傾きが出やしないかと思ひます。自分の保育の傾きは自分じや知らないでやつて居りますけれども、多分その人その人で片寄る所が起るものでありまして、それがその所謂決算出來て反省を促がして來るかと思ふのであります。大塚さんの御質問はそれ以上に細かい日誌のつけ方を求められたのでありませうか。

（大塚）その説明の第二に書きました様な心境を……

それから、雜誌に……お茶の水幼稚園の一週間を典型的にお示しになつたものがありました。あれに就て……。

(應答者) あれは實を申しますれば、人に見せる事を初めから目論見において書いたものです。ですからあの中にはお茶の水の幼稚園の先生の人に言へない恥かしい失敗は隠してあります。あの外に澤山失敗があります。あれはあの雑誌が出版してから、あの一つ／＼を書いた人は自分のばかり見て、「思へば旨い保姆である」を考へて居られたものと思ひますが、その失敗の方の事は出て居りませぬ。あれは研究資料として人に出したもので、自分の爲のものではない。自分の爲になります。決算、清算がつきさへすれば、どんな書方でもいゝじやありませんか。人に恥しかつたら印しでもつけて、○が成功、△が失敗、ミか云ふ様なのもいゝのです。多分、大塚さんの問題の根本は保育ミ云ふものを、その人その人、仕放しにして行つたんでは、自己の體驗が自己の向上に利用されない、ミ云ふ所を仰有るんだらうと思ひますが……。

(大塚) 第二種の方の自分の日誌は、保育日誌ミ云ふよりも、もつミ廣く考へて自分の日誌ですね。自分の日誌ミ云ふものミ、第二種ミ區別がなくなつて了ふのがいゝんでせうか……さう云ふ様な傾向の様に……

保育日誌の第一種は誰が書いても同じ様な性質でありますが、第二種は色々ある——第二種なるものが色々種類があると思ひます。さんなのをつけてもいゝと思ひます。私は日記をつけたい人間ですが、時々これでもつけようと思ふのです。何時も正月になりますミつけようと思ひます。つけようと思ひます時は日記帳を数くも五種か六種欲しいと思ふ。色々私の斯う云ふ事はこつちへ書いておいて、斯う云ふ事はそつちへ書いておいて、こんな事はこつちへ書いておきたい様な氣持がする。けれどもそれはその方の勝手ですな。人に見せる、ミ云ふ事になるミ、全くその目的がはつきりして居なければなりません、自分の爲なら、その方の都合でいゝじやありませんか。決算だけすりやあ。

坂内さんお在でになつて居りますか。

(答へなし。次へ進む)。

それからその次、斯う云ふ問題が出て居ります。

「組の中に特殊幼児が色々居つてその指導法」云ふのですが、此處に三つの種類の特殊幼児があげてある。「第一種は癩癩の強い子供ミ、第二種は作業凡て嫌ひな子供ミ、第三種は注意の散漫な子供ミ」で「この一つ／＼に就ての問題に止まらずして右の様な子供を皆んな一緒に作業させ様にする時、どんな注意が必要ですか」斯う云ふお話。これも私充分お答へする事は却々難しいと思ひますが、皆んな一緒に作業させ様にする時云ふのが、随分難しいでせうな。皆んな一緒に作業させ様にする時、さうも斯う云ふ色々な子供が集つて居りますれば、兵隊の調練の様な工合にきちん／＼と旨くやらう云ふ事は却て難しいので、従つてその組の全體の様子云ふ事は傍から、素人が見ましたら、矢張整はないものになる事は免れないと思ふ。けれどもその先生の方から見れば一人一人に、一緒にやつて居りますにしても、一人／＼に適切な御指導、が行つて居れば、それでよからうと思ふので、所謂皆んな一緒にやらう云ふ事は全く色々な特殊な子が居ります時はこれは餘程、所謂揃ふ、一緒に、ミ云ふ事について機械的に考へては難しいかと思ひます。それを先づさうしまして、その一つ／＼の子供の取扱ひになります。

第二種の作業の凡て嫌ひな子供、ミ斯うなりますミ、これは却々大變です。作業が皆んな嫌ひだ、但し作業ミ云ふのは何う云ふ意味で言つていらつしやるのか解りませぬが、段々嫌ひでなくして行くのが保育じやないでせうか。作業の嫌ひな子供、それはまあ段々所謂普通の保育でそつちへつけて行くの他ないかと思ひます。唯少しこれに就て方法的な事を申して見ますミ、作業の嫌ひミ云ふ事が、何う云ふ理由でその子が嫌ひなのか、ミ云ふ理由を認めたいのであります。若し非常に低能で全くその嫌ひなんじやなくて、作業なんかする事に興味が無い。精神が纏つて來ない子でしたら、これはまあ仕方がない……全然低能でしたら。

併しさうじゃなくて精神は普通であるが、先生から「しろ」言はれた事に就ては、嫌ひだ云ふ子がありましたら、これは全部でなくてもある部分迄は先生から云はれる所が嫌ひだ云ふ所にねらひどころをおかなければならぬ。作業が嫌ひじゃなくて「しろ」云はれる事がいやだ。「しろく」先生から強く云はれるのがいやでなくて、しなければならぬ様に、全體の生活の形が強ひられて居るのがいやであるのでありましたら、それには、これに對しては、その點に對する道があらうかと思ひます。私の考では幼稚園の子供は所謂、その命令によつて仕事をして行くか、或はすべきものである云ふ事によつて仕事をして行く、云ふ事は相當、純正な自發的生活としては、何う云ふものか疑問に常に思つて居るのであります。

但し皆さんが取扱つておいでになります多くの子供はさう云ふ風に心得て居ります。先生が「今日は手技ですよ」云へばもうそれで自分の生活を捨て、びつたりそれに合はして來ますから扱ひいゝのでありますけれども、これはその昨年も私は申しました。色々の事を一ぱいに主張して見ましたが、さうも幼稚園の子供としては少<sup>ス</sup>し早すぎる事じやないかと思ふのであります。詰り今は何の時間だからしなければならぬ。先生が「しろ」仰有るからそれをする、云ふ様にきちんとする子を所謂、順應性の多い子と言ひますか、從順な子云ひますか、始末のいゝ子供云ひますか、何もそれを本體さすべきでないと思ひます。保育の取扱ひをしまして、さう云ふ子供を本體にして、順應する事の出来ない子供を怪しからぬ子供云ふ事は、出來ない、云ひたくないのであります。よく小學校になりますと、自分の好きな本は讀みますが、學校の本は讀みませぬ、云ふのでよく親が困つたりして居ります。その時には自分の好きなものを讀む云ふ、それは立派に讀書の興味云ふものもあり、讀書の能力もあり、やつて居るのでありますが、その小學校に於ては小學校の計畫に基いた生活をさせて行かなくちやならぬし、なし得る年齢であるし、さう云ふ様な所謂、訓練をして行く、云

ふ事が、小學校教育の相當重要な事でありますから、好きな本ばかり讀んで學校の本は讀まない云ふ事は困る事です。

所が幼稚園云ふものはさうもそれさ少し違つて居つて、何か子供がその作業に興味をもつて来る様な環境的ニ云ひますか、生活的ニ云ひますか、準備が出来て居ないで、たゞ先生がだしぬけに「斯う云ふ事をなさい」云はれるとすぐに興味を向けなくちやならぬ、云ふ事は相當無理じやないかと思ふのであります。此の點、子供の方にすつと味方したいと思ふ。

其處で昨年私の申しました「保育法の眞諦」が其處に出て來るのであります。何かその先生が決めたから、言ひつけたから、云ふのでなくて、作業生活の方に這入つて行く用意を先生がしなければいけない。これは二つよりないのであります。

子供達は皆んな他の子供がして居りますならば、社會的に誘導されて行きます。

それからもう一つは何かその先生の所謂私の誘導保育案云ふものに基ついて、そつちへ興味をもつて行く様に誘導されて行く。そのまあ何か法則を先生が充分課するのでなければ、先生の要求される仕事に子供が這入つて行く事は難しい事ではないかと思へるのであります。

この作業の凡て嫌ひな子供云ふのは、さう云ふ子供が居りましたら、先刻の保育日誌、じやありませんが、さう云ふ子供を例外にお思ひになりませぬで、實に先生が幼稚園云ふものゝ本質を發揮しておいでになる大變都合のいゝ子供が來て呉れた云ふ様にお思ひになりました方がいゝかと思ひます。皆んなの多くの場合都合のいゝ子供は「何をしませう」云へば「はい」云つて興味があるかないか、「すべきが故にする」云つた様な子供が多い。さう云ふ子供ばかりでありま

すゝ、保育の本當の事に就て先生がお考へになる機會もないので、私は色んな所の幼稚園にこんな子供を一人づゝ派遣したい様な氣持がして居ります。子供が作業を先生の言ふ通りやつて居ります。あれを好きでやつて居ると思ひになります。したら甘いものじやないかと思ひます。まあそんな風にこれを考へますれば、斯う云ふ子供があればこそ、自然に子供が作業に興味をもつて来る、誘導の方法をもつて居なければならぬと思ひます。

癲癇持の子供を何うするか。これは癲癇云ふのは色々ありませう。幼稚園で急に癒す、幼稚園だけで癒す云ふ事も難しいので、殊に先天的な理由なんかありましたら、其處から癒して行かなくてはなりません、殊に多くの場合神経がいらゝする。自己統制が出来ないのでありますから、昨夜、睡眠が充分旨く行つて居るか、云ふ事は大いに關係して来ると思ふ。ですから癲癇持の子供が居りましたら、まあ先にお醫者さんの問題——通りの癲癇持は珍らしくありませんでせうけれども、餘り特殊兒童アンヤにお書きになる程の癲癇持の烈しいのが居りましたら、これはお醫者さんの方の問題であると思ふ。その性格病理及び身體の病氣の方の問題を離れて、保姆の方の取扱ひから云ひますれば、私は餘り癲癇の強い子供云ふものは、その根本の身體が何うだとか、神経が何うだとか、云ふ事があつちやあ問題でありませぬが、烈しい、特別な事でなく、出て居る癲癇云ふものはこれは先生が相當強い態度でその癲癇を少うし斯う何ナニ云ひませうか、勝手に癲癇さしておいた方がいゝんじゃないかと思ふ。この癲癇さか、我儘さか云ふ系統のものは相手に於て、自己の生活形態を求めて行くのでありますから、相手になり方が油斷をする益々癲癇の子供は愉快をもつのでありますから、云つて先生が癲癇を起した子に風に柳云つた風に受流してばかり居る様な妙な術を講ずるのは何うかと思ひますから、癲癇を起したら、崇高な態度でうつつやつて置く。まあ所謂、癲癇負けをさして了つた方がいゝかと思ふ。但しさう云ふ風に打つちやつたから癒るさは申せませぬ。多分幼稚園よりも家庭に於てさう云ふ、その悪い癖がついて居るのでありませう

から、幼稚園でさうしたから云つてすぐ癒る事もありませぬでせうが、幼稚園ではさう云ふ態度を特にして行くのが一つの方法ではないかと思ふのであります。

注意散漫の子供、ミ云ふのはこれは色々ありまして、病理的な原因が、ミになりまして注意が散漫でありましたら、そつちを癒すより他仕方がありませぬ。併しもしも幼稚園へ來まして大勢の子供ミ一齊、劃一の取扱ひを受けて居つて他の子供が注意するのに、他の子供の様に注意出来ない、散漫だ云つて叱られて居るのは、幼稚園の方がその様に、出て行かないからだと思ふのであります。殊に一齊劃一的でない所の誘導的な取扱ひが試みられて尙、且つ注意散漫でありましたならばその子供が悪いのでありますけれども、先生の方でその子の注意を纏めるべき根本のたすけをしておやりにならないで、注意が散漫だ云つたら、幼稚園の方が手の盡し方が足りないのじやないかと思ふ。注意ミ云ふ事は、從來の心理學では主として外のものゝ方に重きをおいて考へましたけれども、外のものによつて注意を引附けられるミ云ふよりも、中の方にそれを注意をさせて行くものが中になれば、注意出来ないと思ふのであります。この注意ミ云ふ事に就て、その心理は、所謂興味ミ云ふ事ミ一緒にするのでありますが、その興味の如く、そのものに向つて興味を持つて行く、ミ云ふ事は古い心理學では何處迄も外において居る、新しい心理學では中に原因をおくので、中に原因をおく、一つの原因を生物的心理學、即ち本能だ云つた様な事で説明して居りますが、私は本能ミ云つた様なものでなく、それに注意を向けなければならぬ様なものを中に一つ與へておやりにならなければ、出来ないのだと思ふ。先生が唯、子供の、思ひたかないものを與へて、外の子供は注意して居るが、お前は注意しないか、ミ云ふ様では到底出来ない事と思ふ。何かそれに注意を向けざるを得ない内部的な必然性が養はれて居なければならぬと思ふ。内部的な必然性は私の考へでは矢張、廣い意味に於ける誘導保育が基にならなければ難しい事と思ふ。常に申します様に、我々は所謂注意しなければならぬミ云

ふ考へ、氣持がなくてはならぬ。さうすれば到底出来ない所迄出来るのでありますが、子供の場合は注意しなくてはならぬ云ふ義務的な、束縛的な事で指導して行く事は出来ませぬから、保育が子供の生活に對象が結びつく必然關係を造つてやらなければならぬ云、斯う思ふ。具體的に云ひますならば、例へば晝をまあ何か書く云、箱なら箱を作る云しましても、箱を作る云云だけではさうも注意が纏まらない云つても、それを責められないと思ふ。子供の方がその箱を作る必要云ひますか、必然性が充分促されて、箱を作る所の箱に注意を向けて行くのではないかと斯う考へるのであります、單純にこれを心理的な問題と見ないで、矢張生活的な問題として大きく、注意云ふ事を考へたらいいんじやないかと思ふのであります。

同じ方の問題に「始めて幼稚園生活に這入る子供達に與へる良習慣」何う云ふ様な習慣を幼稚園に來た時に先づつけべきか、斯う云ふお話でありますが、この幼稚園へ這入つて來た時に先づつけたい習慣といふものは、お訊ねの意味が色々にされますけれども、習慣をつける種類の方からお答へして見れば、私は、衛生の習慣、云ふ様な事を考へて居るのであります。衛生の習慣、例へば幼稚園へ來ましたら、手を洗ふ云、或は御飯を食べる前に嗽ひをする云、食後にはブラシを使ふ云、色々さう云ふ衛生、大變喧しい事ではありません。身體の方へついて居る習慣であります。さうも今迄の教育の方で云ふ習慣は抽象的な習慣が多かつた様に思ふ。お辭儀をする習慣云、きちんこ腰掛けて居る習慣云、色々さう云ふ、確かに養はなければならぬ事でありますけれども、やゝその子にこりましては抽象的な事であると思ふ。所が其處でして居る、手を洗ふ云か手を洗つたら必ず拭く云、シャボンを使つたならば必ずシャボンは隅にきちんこあげておく云、自分の身體に關係して來る習慣云ふものは抽象的ではなくて、餘程生活經驗として具體的なものであると思ふので、先づそれをつけるのが必要ではないかと思ふのであります。此處の幼稚園で庭に自由に出られる入口をつけて居り

ますので、然も部屋の中を綺麗にしたい爲に三つの靴を使つて非常に無理な事を試みてみました。外から履いて來た靴を、部屋の中で履く靴を、庭に出る時履く靴をそれをそれ／＼履き換へる。その履き換へる爲に一つ／＼靴箱をおきまして履き換へる。さう云ふ臆怯な事なのでありますけれども、充分それが完全に一人残らず行はれて居るか行うかは別として、大體に於きまして、非常によく行はれたのであります。靴を履き換へるもんだ、さう云ふ機械的な習慣でさうなつて居るのでありませうけれども、矢張、一種の衛生習慣でありまして、自分の履いた外の靴の中の靴の氣持なんかの違ひが、さう云ふ様なものが衛生的に云ひますか、身體に屬した問題として經驗せられて來るんだと思ふ。最近に……最近さう云つても半年ばかり前に……「ニューナーセリースクールの教育」に云ふ本の中に衛生習慣をつける事を非常に主張して居ます。まあ初めの中は一學期位はさう云ふ事ばかりをやつて居る。例へば尾籠な話でありますけれども、トイレットに這入りまして……便所に這入りまして……手をちやん／＼洗ふか、何うか。ドアをきちん／＼閉めるか何うか。さう云つた様な事なぞを、或はびし／＼に濡れたタオルで顔を拭いたり、手を拭いたりする事が不快である、さう云ふ様な、さう云つた感じを養はなければならないとか、さう云つたきちん／＼決めても決めないでも、そんな事は別に、幼稚園にすれば大事な事で、いゝ事であるとは云ひますものゝ子供には直接に不快の感じが起つて來ないのであります。快、不快を直接に子供に經驗せられる様な、感じられる様な、さう云ふ習慣を養つたらよからうと思ふ。斯うまあ私は思ふのであります。其處から先は／＼色んな習慣を養ひたいのであります。幼稚園で第一に心掛ける點は其處かと思ひます。

それならばさう云ふ衛生的な生理的な習慣でさう云ふ方面が旨く段々養はれて來る事は構はぬが、後は何うであらうか、さう云ふ事になります。まあそれがちやん／＼つけば後の習慣もつき易くなつて來るのじやないかと思ふ。習慣に云ふものは一つ／＼の習慣によつて、新しい出發であるとも考へられますし、習慣に云ふ事自身がつき易くなつて居る子供、

ミ云ふ問題もあるのであります。一つ／＼の習慣を一つの新しい出發點に發して行くミ云ふ問題もありますが、併せて習慣そのものの教育です。中には又、習慣ミ云ふ事をつける事の出来ないキャラクターになつて了ふ事もあります。

所でこの衛生習慣の様な事をやつて居りますミ衛生の習慣がつくのみならず、其處に先づ習慣ミ云ふものを先に經驗する、其處で練習されるミ云ひますか、先生の要求される非常に抽象的な習慣でも比較的、樂に受けて來るのじやないかと思ひます。丁度赤坊を家庭で育て、居ります時に、まあ赤坊の習慣は、赤坊ミ云ふものを正しく育てようと思へば、乳を飲む事ミ、眠る事ミ、排泄、この三つをちゃんちゃんミすれば、後の習慣は皆んな旨くつくミ云はれて居る。詰り乳を正しく飲んで正しく睡眠して、排泄を正しくするミ云つた様な、これは習慣ミ云ひますけれども習慣ミ云ふか、純粹生理的問題でありますが、その生理的なものがレギュラーに――規則的に――正しく行く、ミ云ふ習慣を子供につけて行く。これはきちんミ行つた方が氣持がいゝ、ミ云ふ快感がつけられるのであります。幼稚園に這入る前にちゃんミつけられゝばいいのであります。今日我國では衛生習慣がちゃんミついて居りませぬから、私はそれをねらつたら何うかと思ふのであります。

それから其次に「非常に社會性の缺けて居る七歳の男の子。自分の家に居れば、一度着た着物は却々取換へないし、一度好きだミ感じた食物は幾日でも同じ物を食べて居る。幼稚園へ來ても大體そんな傾向が表はれて居る」ミ云ふお話。

之は食物で云へば偏食であります。着物で云へば偏衣でせうか。Monomania ミ云ふ精神病的症狀です。この七歳の子供が、所謂モノマニアミ名を付けていゝ程變態的なのか何うか分りませぬが、そこで、若しこの子供の斯うなります原因が、大體其子供本來に、聊かモノマニアの傾向があつて、そこへ家庭の方で親が不精で、面倒くさがつて、子供がモノマニアだもんだから、いゝ氣になつて親が仕向けて……ミ云ふ様な事がミになつて居るのじやないかと思ふ。普通の場

合では、親の方から仕向け様としても、子供がモノマニア的傾向を持つて居りませぬければ、さうならないのですけれども、子供の方がさう云ふ傾向を持つて居る所を、親が面倒だから、それに合はせて行く云ふやり方……親には、さう云ふ傾向が随分あるのでありまして、親ばかりではない、世間の人々との關係でもさうである。私の家では——私の家だけのおかしな話で——さう云ふ事をにんじんと言つて居ります。あの「にんじん」云ふ映畫を御覧になつた方も多いと思ひますが、にんじん云ふ映畫の根本的問題は別として、あのにんじんのおつかさんが、にんじんを取扱ふのにその手が澤山ある。例へばこゝに御馳走がありまして、親はその御馳走をその子供にやり度くない……云ふおかしさが、願はくは取つて置き度い氣がして居る。そこで、にんじんに向つて「これはさうだ」と言ひます。にんじんの方が直ぐに食べたりへばいいが、おつかさんの顔を見まして「そんなに欲しくない」と一口言ふ。さう言ふことが最後で、「さうく」お前はこの間も之が欲しくないと言つたね。お前は嫌ひだね。上げないね」と傾きを利用してぐんぐんして了ふ。一度言つたものだからさうなつて了ふ。そこはにんじん……あの子供も少し變なところもあるのかも知れませぬけれども、さう云ふ譯合から「着物を着換へなさいよ」とおつかさんが言ふと、子供の方は「これでいゝんだ」と言ふ。おつかさんの方じや、新しい着物を着せてやるのが億劫で「お前がいゝと云ふならいゝよ」と言ふ。食べ物にしましても、晝飯に食はせた物を晩に出して「かへようね」と云ふと、子供が「それでいゝ」と言ふ。「お前さへよければいゝ」と云ふ手である。斯う云ふ、向ふを主にした態度で此方がおつ被せて行く。私は、家庭の親が矢つ張り不精なんだと思ふ。その不精を持つて行くのに丁度都合のよいモノマニアスティックの傾向があるから、意識的に生ずるのではないが、さうなつて來たのじやないかと思ふ。精神的に、根本的に弱いのか……或は身體の悪いと云ふ事で、この傾向の甚だしい子供はあるものでありますが、それならば病理の方の問題としては、取扱ひ方に於てこの問題に重きを置く。幼稚園に登園してもその傾きがある云ふ傾きは何

う云ふものであるか……久保田さん。

(久保田) それは、家の方でも持てあましていらつしやる。着物を脱がす時にも大騒ぎで、泣かして脱がす。今家庭の方は、兄ミ弟ミ二人、お父さんもお母さんも皆揃つていらつしやる。家庭が助長する様な傾向はない。幼稚園では、四月に這入りまして、五月迄一度も外へ出て遊ばない。五月の終りに、寫眞を撮りませう、ミ云ふ時に始めて出た。

(應答者) 家の中ミ外……家の中にモノマニアですね。

(久保田) 繪を書くにしても、何時もつめたい色ばかり書く。お花を書くにしても、黄色、赤を使はないで緑等を使つて、書いて差上げるミ直ぐ消して了ふ。腺病質です。

(應答者) 幼稚園へ來て、ごの位經ちますか。

(久保田) 今年の四月に這入りました。

(應答者) まだ見込みはありません。さうも、本來モノマニアスティックで、家庭が助長して居る様ならば、そこから直して行くより、仕方がないが、今のお話では、さうでないから……。花まで綠色に書くミ云ふミ可成りですね。すごい所がある。變態的な傾向も見えますが、段々直りませう。さうもそれより仕方ありますまい。たゞ、その子は、自然に打ちちやつて置いても間口を廣くして行く子供ミ違ひませうから、御注意になつて居る通り、餘つ程積極的に色々生活を極めて行く、ミ云ふ事を御注意になれば、段々よくなつて行きませう。

モノマニアスティックの御經驗、他にありませんか。それをうまい工合にひよつミ直したおまじなひ、かなんか……：：：精神病的の治療で行く事もありますけれども、子供の方は何うですか……まあ一つ、もう少し試みようじやありませんか。だんくお直しになつたらいいでせう。急に、色鉛筆を取つて、赤いのを書かせるミ云ふ譯にも行きませぬけれども、寫

眞を撮るので外へ出たミ云ふ大なる経験があるから、段々廣くなつて行きませう。さう云ふ子供は、幼稚園で非常に効果がある。其子ミしては……先生のお考へになる程、結果が表はれては居りませぬけれども……其子ミしては、幼稚園に居ります爲に、自分ミ違つた色々な事が行はれて居るのを感じて、其方へ興味が養はれつゝあると思ふ。食物なんかは、これは色々な方法を講じて、變つたものを、うまく食べさせる工夫、なんミ云ふ事はありますけれども、比較的易しいのじやありませんか。

（久保田）御飯だけ食べる。他のものは、卵だけ好きです。

（應答者）安く済みますな。これは餘り細い實際の事で、よく分りませぬけれども、これは御経験がありませんか。卵の中へ段々肉を入れて見るミか、野菜を入れて見るミか何ミか、まあそんな事を根氣よくやつて、段々食べて行くのですね、實際の経験で見ますミね。これは、今伺つて見ますミ、却々重態ですね。初め伺つて、一寸私考へた様に簡單じやなく、卵だけ、ミ云つた様な事ミ、幼稚園のさう云ふ事ミが皆平行的に現はれて來て居るミすれば、所謂性格病理の方で、よく調べてお貰ひになつたら何うですか。これ、教育の間違ひミか、教育の仕方ばかりじやなくて、所謂普通言ふ健康全體の上に、故障があるのではありますまいか。けれども私はさう云ふ事は、成可く言ひ度くない。それは、さう云ふ事を言ひますミ、一寸變な子供があるミ、教育から見離すからであります。

何所迄も教育からやつて行くが、根本は、醫者にお見せになつたらいいと思ふ。虎の門の文部省の横に、聯合婦人會相談所があつて、土曜日に開いて居りますから、彼處にお連れになつて御相談になつたらいいでせう。親によくお話になりまして……。

それから其次の問題は「自己暗示にかゝつて居る子供の指導法」自己暗示ミ云ふのは、お分りになつて居りませうが「例へ

ば、繪を書くと言へば、同じ繪を何時でも書き、粘土製作をすれば、同じ製作をする」云ふのでありませうが、これ一寸お名前が書いてないものですから、誰方が分りませぬが、よく、さう云ふ事は所謂、オートサゼスシヨンを申しまして、比較的珍しくない位、あるでせう。其子の書いて居る繪は、汽車なら汽車ばかり書いて居る。兵隊なら兵隊ばかり書いて居る。比較的に珍しくない位、あるでせう。これも、其子としては何か理由があるのか知りませぬが、外的に見れば、興味の廣さが無い、云ふ事、それから、表現の工夫をして行く事が大變に不精で、何か初め一寸やつたものは、その所謂表現の手順がついて居りますから、新しい工夫をしなくても出来るが、變つたものを書くのは、努力しなければなりません。さう云ふ……不精、云つた様な事になるんだらうと思ひます。大體に於て——この場合は何うか分りませぬが——サゼスシヨンを云ふ事は、心理的に説明しますれば、意志の弱い子に云ふ方に屬するらしいです。意志に云ふのは御承知の様に、外に出て行きます働きではありませぬけれども、自分の心の意志を、自分の中で色々抑へたり、マネージして行く内部意志——その内部意志の弱い子供はさうも思つた事が——先刻言ひました様に、不精とか興味が少ない云ふ事じゃなく、あれを書いた云ふ事が、自分を抑へて了ひまして、そのあれを書いた、あれを作つた云ふ経験で抑へて居るのを、自分の意志で統御して行く事が出来ない。これは例へば發音の間違なんか、意志の弱い子供が、意志の當り前の子供でも弱い時に起る。少し大きい子供でも英語なんか教へて居りまして、シラブルの間違へる。まあ、單數複數でも宜しい、ブックならブックを、ブックを書いてゐるのに、ブックを發音してゐる子供がある。間違だぞ教へる、間違へちやならぬと思ふ前の経験が全體を支配して、自由の立場に居る意志が自分を統括しないから、思へば思ふだけ間違をする。之は詰り、先生に責められたり、間違へちやならぬとビク／＼するに起る。これは、其時臨時に意志が弱められて居るのでありまして、これは大體、意志の弱い子に思ふのであります。それでこの問題を三様に分けまして、興味の少ない云ふ様

な所から出て居る自己暗示ならば、興味を色々に廣めてやるのが一つの道でありませう。

表現の不精、ミ云ふ事でありましたならば、先生が手傳つて、樂な書き方、變つた書き方、或は變つた物を作る事を、そんなに面倒な事でないミ云ふ経験をさして行く指導もありませう。意志が弱いミ云ふ、性格の根本的原因があるミ云ふ事でありますならば、これは段々他の全般的教育に依て、その子供の意志を強くして行くより仕方がないミ思ふのであります。

それから、同じ方が出して居る問題は「友達ミ遊ばない、先生にもついて來ない。而も一人で居て、結構愉快がつて居る子供を、グループへ引張つて來るには何うしようか」斯う云ふ子供は珍らしくない。「一人でふらふらして愉快がつて居る」斯う云ふ子供は、問題を二つに分けて見度いミ思ひます。

第一の見方としては、グループの中へ這入るのが子供の自然性だ、ミ私なんか始終さう云ふ論法で行つて居りますけれども、然し斯う云ふ子供があつた時に、これが例外だミ言へないので、斯う云ふ、一人で一人を樂しむ、這入らうミ思つても這入れない子供は別問題ですけれども、這入らうミ思つて這入れないのでなくて、一人で居る事がそれが愉快だ、さう云ふ——性質ミ言ひますか——子供なんですから、この人はこの人ミして、先づ第一の此方の態度ミしては、必ずしもグループに入れなければ此人の生活が、駄目だミ言へないのであります。

これはよく……私はこの事に就ては絶間なく質問されて居ります。私の保育の根本の行き方がグループ主義で、友達同志の影響を充分受けるミ云ふ事が、幼稚園の本質の様に説いて居るが、却々さうでない子供がある。又、さうでなくても、其子は其子で充分、自己ミしては生きて居る場合には、構はぬじやないか、ミ云ふお尋ねを受けるのでありますが、普通一般の子供ミしては、グループに這入る事に依て始めて樂しくなるから、それを大體本則ミして考へて居りますけれども、

斯う云ふ、一人で居たい、それが面白い云ふ子供であつたならば、強ひて何うする事も出来ないじやないか、強ひてさうしなくてもいい、云ふ所に第一の根據を置いて行き度いと思ふのであります。其子は其子で愉快にさしてやつたらいゝかと思ふ。却々、一人で居て、充實して行く生活も出来るのであります。而もそれはそれで置いて置きまして、何も、此子が一人で居る事を變則と思はないで、さう云ふのもいいしまして、乍然第二の問題は、一人で居る事はいい、んですけれども、グループに這入れない事は問題である。グループに這入らないからいけない、云ふ結果論的問題ではなく、這入らなくても一人で楽しんで居て、結構、生活が出来て居るが、這入れない云ふ事は困る事である。這入れない、云ふ所に、何かその子の缺點があり、何か理由があるので御座いますならば、急に入れる事は出来ませぬが、ねらひましては、そこを狙つて、徐々にその缺點を補ふ様に仕向けて行く事は、勿論であります。然も多くの場合に私共は、無理にこの子を引張つて、グループの中に入れなければ、保育が出来ない云つた様にするよりは、一應その子の流儀で、その生活を満して置いて、相當に……自分が溢るゝ如く満足して來ます、遂には他のグループへも——急には來ますまいが——段段來るのじやないかと思ふ。これを、本來グループに來ない事が結果の上に於て不都合である如く取扱つて居ます、此子は何時も、満される事がないのであります。今グループへ這入らない事は困るが、何時もそこを満たしてやる態度を取る。する、満足の經驗が出来まして、その溢れたる満足が、それを他の子供へ結び付けて來る道になりはしないかと思ふ。もつゝ實際に則して申しますならば、其子をグループへ連れて來ようとししないで、その子の生活を満して……充分に溢れる様に満足させまして、得意になつて居る様な所へ、グループの方から段々くつ付いて行く、その所の仲介を先生がお取りになつたら何うか。「今、誰さんが砂場が何を拵へて居る、それを拜見に行きませう」云つた様に、グループから這入つて行く。何も、此方から仲間に入らなければならぬ様にしつゝ、こゝ誘ひかけないで、押戻し／＼やつて行

く。その中にその子は、プラス社會的な愉快、満足を感じて行くのじやないかと思ふ。

この問題は、私にまゐりましては、是非一度はつきり申して置き度いと思つて居つた事で、いゝ問題が出て居る。惜むらくは、名前が出て居ないので困りますが、所謂私なんかの様に、グループを本體として幼稚園を考へて行きますと、人間の中で、さうでない人が居ります、その、さうでない子供を、大變苦しめる様な事になりまして可哀さうだと思ひます。さう云ふ子供には、さう云ふ子供としてやつて置いて視つめれば、相當交つて来る。斯う云ふ風にしたら何うかと思ふのであります。下手をしますと云ふ……たゞ幼稚園へ來たからグループへ這入らなければならぬ、と云ふ行き方をしますと、この子供は、自己を満される、と云ふ幸福を幼稚園で得なくなつて了ふかと思ふ。

こゝで色々申上げて居ります間に、何うか一つ皆さんの方からも、お考を仰言つて頂きます。

で、其次の問題は、之は私には少し難しい問題が出て居るのですが、一度これを讀みまして、その方にお話をして頂きませう。

「二年保育の二年目の男の子ですが、日々に子供らしさが失せて行く様な氣がしまして、母親も心配して居る」たゞ、子供らしさが失せて行くに云ふこれだけならば、これだけの話ですが「身體の方が普通の發達であるが、顔は初めから大人っぽく、殊に最近では、子供らしい所は殆ど見えませぬ」。つまり、顔が大人になつちやつた。「精神の方は、感情方面がよく發達して居る、勝氣である。家庭では、お父さんがありませんで、家には、兄が二人、姉が一人、その子は末っ子ですが、商店であつて、店員が大勢居て、大人相手に話をする機會が多い」。渡邊さん、如何ですか。顔が大人っぽいと云ふ……。

(渡邊) 子供らしくない……さう申上げて宜しいか分りませぬが、私の目から見ても大人っぽいし、他の方から見ても、

大人つばい云ふ事は直ぐ顔で見ても分る。昨年、這入りました時は、大人つばくはないと思つたが、今年になりましてからは、小學生の様な服を着て……今年のお正月頃から、そんな氣持が澤山になつたのではないかと思ふ。殊に四月からは、色々な事情で、人手が足りなくなるこ、大きい組ですから、色々な方面にリーダーになり勝ちである事が、影響して居るかも知れませぬが、最近では何かの遊びを見付けて、しよう／＼こするが、何時でも先頭になる云ふ氣持で、仲間に入らない。野球をやれば審判官云つて這入らない。遊びはやらう／＼云つて來るが、自分がその遊びに這入り切る事は／＼しても出來ない。一番よく這入りきつて居るのは積木だけです。それも部下を使ひまして、彼方へ持つて行け、此方へ持つて行け云つてやる。小さい組の子供が這入りました時は、そつと一人づゝ集めて、お話をしやつたり、繪を書いてやつたり、私共随分助かりました。その爲に、仲間に入らなかつた子供が、その子の爲に入らる様になつたりした。

（應答者）大人つばい顔云ふこ、何う云ふのですか。詰り私は……子供らしくない性質の子供はいくちもある事です。所が、精神的變質ですこ顔が變るんです。さう云ふのがある。實に、浦島じやないが、子供であつて、お爺さんの様な顔になる病氣がある。丁度、皆さんが何時迄も若くていらつしやるのが病氣である様な工合で……。そんなに顔が激しいのですか。

（渡邊）あざけなさ、すっかりなくなつた様に思ふ。それで私此頃「そんなに世話をして居るこ、もう少しするこお爺さんの様になるわよ」云ふこ、びつくりして……。

（應答者）さう言つてきかしたのですか。

（渡邊）父兄も心配して、何んな事をしてもいゝから、子供らしく直してくれ、こ……。

(應答者)家でも心配して居るのですね。さうも困りますな。大人になつちや、餘り問題ではない。大人になつて了へば當り前の顔になる。まあ、子供らしさを失ふミ云ふ原因は、顔ばかりミ云ふ譯はないから……原因は、家に大勢店員が居て、家では、まるで大人の世界に暮して居るのでせう。さうして自然、考へ方も感じも大人つぽくなる、さう云ふ傾向は多いでせうと思ひますが……勝氣の方ミ、それミは、別に關係がありませうか。

(渡邊)さうして、一緒に仲間に這入つてやるのが嫌だ、ミ云ふのは、リレーをすれば、勝たなくちや嫌だ、ミ云ふ事も感ぜられる。私の方では、自由畫の帳面を、いくらでも書かせて、なくなつたのから換へてやる。その子は直ぐ書いて了つて「換へて頂戴」ミ持つて來るが、何を書いてても理窟を言ひく書いて、此頃はクレイヨンで書きませぬで、慥<sup>ツザ</sup>鉛筆で細かい繪を書くが、大して纏つたものも書いて居ない。

(應答者)何か名案、ありませぬかな。勝氣な子供、ミ云ふ事は、あまりその反對の、性根なしのグータラな子供から見ればいゝが、全體の性格の健全なる發達ミしては、勝氣ミ云ふものは相當邪魔になるものでせう。直してやり度いと思ふのですが……恐らくこれは——形式的な答の仕方ですけれども、精神ミ云ふものに、極く中の方ミ、上つ側の方があります。——上つ側の方が發達して居るのでせう。大人でも、外はぼんやりして居て、中はしつかりした人ミ、外は氣が利いて居て中は空つぽなんぞある。あゝ云ふ意味の中側外側、大人ミ一緒に居るから、物を批判する眼だミか、人ミ人ミの關係、外ミの觸れ合、等が早く發達したのでせう。それに對して、自分で自分の外が發達して居ますから、人をも批判するし、自分も批判しますミ、自分の中が伴はない。そこから、始終、負けやしないか、負けたら……ミ云つた様な意味の心配があるのでせう。ですから之は本當に自分の實力で生きて行く内部の力で、よく經驗を養つて行くのより他にないでせうな。斯う云ふのが、若し、心配しない人の手に懸つて居りますミ、外側の熟して居るミころで、えらいえらいミ煽てられて成

長してしまひます。駄目なものになつて了ふでせうけれども、其次に、外つ側を何う取扱ふか、中を熟すのは、さう云ふ用心をなさるゝとして、今出て居る外側の問題、それを何う取扱ふか云ふ事に就ては、例へば、先生迄駈らして自分は審判官になり度い、云つた様な事は、まあ一つの卑怯ですから先生……私ならば、許さない。詰り、自己の力を試みるの機會のない生活ですね。自分の實力は棚に上げて行かうとする。負けるのが嫌だ、云ふ勝氣、それをベチャンコにしたのでは、立つ瀬がない。負けるのが平氣だ云ふ事はないが、殊に、負けるのが嫌だから、一應實力を相當に出して見て、さう云ふ事を希望して居るその態度に對しては、一通り、他の子よりは目に見てやらなければ、立つ瀬がなからうと思ふ。けれども自分の實力を其處に表はす事を避けて置いて、さうして所謂、實力範圍内の生活に於て、得意になつて居よう、云斯う云ふ場合は、許しちやいかぬと思ふ。この子は多分顔が段々大人になつて……今に又何うなるか分りませぬが、この勝氣云ふ方だけは損ですけれども、實に此子に限らず、勝氣な子供は、素直に發達する事を妨げられて、損ですが、何うもさう云ふ傾向の子供は、小學校の上級あたりになつて……つまり實力で段々生活をして行く様になつて、目覺める所がありませう。そこ迄は、斯う云ふ傾向を更に助長しない様な方法で、注意して居る位なものじゃないでせうか。所謂勝氣云ふのは二つ、實力を試したくつて、人一倍負けるのを嫌がるの、實力を出さないうで勝利感を満足しよう云ふ場合と、はつきり二つ、區別出来ると思ふ。その後の方は絶対に許さん方がいゝかと思ふ。顔の方の問題……顔云ふ云ふ冗談のようになるが、私がさう云ふ心配をしたのは、變質者は一體に顔が變つて來るのがありますから、さう云ふのは、それが著しいならば——此子はさうではないと思ふのでありますが——さう云ふ御心配ならば、矢つ張り精神病學の方の問題ですね。早發痴狂云ふ様な、一種の軽い精神病の中で、顔が非常に變る。よく大人でも、急に一夜にして年取つて了ふのがあります。これは精神病的病氣です。

それから矢張り渡邊さんの問題で二年保育の幼児の、二年目の最初の取扱ひを何うしたらいいか、つまり之は、二年保育の時に、一年生と二年生を區別しよう云ふところに立つて居る。誰方が御經驗はありませんか。小學校の一年生と二年生は、學科で區別を示して居るが、幼稚園の場合には、その所が何うなつて行く可きか。これに就て御意見のある方、教へて下さいませぬか。つまり、一年居て、二年になつたならば何う變つて行くか……(發言者なし)。

これは却々問題です。二年居たんですから、一年目と變つて來なければならぬ。さう云ふはつきりした形態で求めて行けば、却々難しい問題でせう。何うでせうかこれは……子供自身の方からは實力、所謂生活の……仕事の内容の程度が上つて行く前に、<sup>キメラ</sup>氣位、と言ひますか、意氣と言ひますか、之に於ては二年目は大變に變つて來ませう。二年目、云ふ實力よりも、自分の年下の珍らしい奴が這入つて來るものですから、如何にも兄になつた様な氣が出て來て、自尊心が出來て來たら、それを利用しての教育も出來て來るでせう。餘り激しく、いつばいに利用して行く事は無理でせうけれども、相當に子供達の自尊心を利用して、それに則して子供を獎勵して行く云ふ事は出來るでせう。小學校の學科が、一年生より二年生の方が、程度が高くなつて來る云ふ意味合に於て、幼稚園の仕事が何うなつて來るかと言ひます、學科の様には、はつきりしませんか、實際に於て、若し一年の初めの保育がうまく行はれて居れば、(別に、所謂二年になつてそこから、云ふ事はないが、一年の終ひの方から二年の初めにかけて徐々に段々に何う云ふ事なく、小學校なら、學年の變化に依て、本まで變るが……數學の、或は他の學科の教授要目が變るが、幼稚園は、さうは變らないから、二年目と云ふ差別がそんなにしつかりしたものではありませんまいけれども)そこからさなく段々、同じ製作をするにしても、時間が長くなるさか、或は此方の要求にしても、相當にうまく云ふ事を幼稚園では重要視して居りませぬけれども、自然に、小さい時よりは上手になつて居りませうから、要求を増して來る。或は又、先生の方の要求が次第に、年と共に高め

られて行く、ミ云ふ事で、智能の方に於ては、さう、小學校の様にくつきり、二年目から何うなる、ミ云ふ事はないでせう。

たゞ此所に幼稚園の問題として、此頃……誰方かの質問にもあつた様ですが、我國の幼稚園は全然年齢に依て、組を組織して居る事になつて居りますから、大きい子が小さい子に及ぼす……小さい子と觸れて行く生活交渉ミ云ふものは、我國の幼稚園では、自由遊び、自然の生活の中で、偶然に行はれる事の他には別に何うミ云ふ事はないけれども、二年目になりましたならば、下の子が……自分より年下の者が這入つて來て居るのでありますから、先刻のお子さんの様な、さなきだにリーダーになり度い子供を、二年生だミ言つて、大いに督促したら、益々大人っぽくなるかも知れないけれども、段々何かの機會に於て、上の子の爲に、下の子との關係を多少つけて行く、ミ云ふ事は……それを本體にして行くミ云ふ事は、我國の、年齢に依て組を組織して居る事に於ては駄目であるが、さう云ふ機會を狙つてもいいと思ふ。まあ、餘り、女學校の五年生が新入生の世話をする様な、手の込んだ濃厚な事は出來ますまいけれども、多少幼稚園の子供らしい程度に於て、責任の重い方の事を上の組がするか、下の組でも、餘程個人的活動の要素が多かつたのが、段々集團的活動の要素を加へて來るさか、さう云つた様な、兄さん振つた感じを起させる様にして行く事がいいと思ふ。最初の取扱ひミ云ふものに、特に何か問題がありますか。

(渡邊 私の方では、今先生が仰言つた様な機會を相當與へられて居る。三組になつて居りますけれども、大きい子供も小さい子供も一緒にやつて居りますから、お兄さん振るさかお姉さん振るさか……新學期に小さい子供が這入つて來て、さう云ふ上下の細やかな氣持は大變よく味はふ様に思ふのですけれども、その所の取扱ひが、私共よく出來て居ないミ見えまして、一緒に作業をさせて、眺めて居ります時に、……一年保育の男の子ミ二年保育の子ミ作業して居るのを見た

時に、一年保育の子供は、自分の思つた事を大膽に發表出來て、自分の作つた物に満足して居る。二年目の子供は、斯うしたいあゝしたい、ミ云ふ要求が澤山出て、「手傳つてくれ〜」ミ私共に申します。それが段々細かい所になつて了ひまして、充分満足させてやらなくなりますミ、仕事ミ云ふものに興味は持つて居るが、自分で思ひ切つて突き進んで行く丈の表はし方がなくて、困つて、その爲に他の遊びの方にする〜ミ逃げて行つて、面倒なミところに這入り込まないで、外で戦争ごつこして遊ぶミか、蟲取りに行つて了ふミか、何か大きな仕事を見付けても、成可く先生を頼んでやらうミ云ふ様な傾向に、一時なつて了ふ。それを通り越して、二學期の終り頃になるミ、今度は變つて参りまして、一年保育の子供ミ、一寸同じ様な傾向になつて了ふ事も御座います。で、さうしますミ或方は「じや一年やつても二年やつても同じやないか」ミ言ひますが、私から見ましたら、子供の内容を考へました時に、二年やつたミ云ふ事を喜ばれる事があります。けれども、二年やつたから此所が斯うなつた、彼所が斯うなつた、ミ大きな聲で發表出来るミところには行かない。そこを、二年になり始めに取扱ひ方を自分ミして考へましたら、何ミかなるかミ考へまして……。

（應答者）それは、二年になり始めには、二年になつたミ云ふ事に就て比較的感じが働く。二學期になるミ、その比較的感じが珍らしくなくなつて、別に……一年の子ミ同じになる譯ではなく、小さい子ミの關係で生きるよりは、自分一ぱいの生活を出して行く。それで、同じになるミ見た方がいゝじやないか……。ですから貴女のお話の通り、實力ミ言ひますか……實際の發達ミしては、現はれミは別について居るものミ見ていゝのじやないか。

これは、皆さんの中で御経験があらうミ思ひますが、幼稚園の二年保育でも三年保育でも、一番しまひの、幼稚園を終る頃の年になりますミ、こゝあこもう一年ばかり、この子を教育して見度い、ミ云ふ氣持は皆さんに起る。これは何も、この子を、小學校の先生に渡すのが惜しい、ミ云ふ感情じやなく、幼稚園のやり方で、何うももう一つ、手應へ……が、

ちりした所が欲しかつたのが、小學校に這入る頃になるミ、格段に現はれて來るから、箱を造るミか何をするミか云ふ事を相談しても、その所の智能も進んで來ます、ミ云ふ様な所が顯著に現はれるか、そのあらはれが、一年やつたのミ二年やつたのミ、小學校へ這入る時に、され程非常な違ひが出るか。二年保育したから、一年保育したよりも手應へが倍になる程、現はれ方がなるか、ミ云ふ事は、……こゝだけのお話ですが、さう顯著には出ないでせう。それを出さうミするミ無理でせう。つまり大人ですミ、一年ミ二年ミ、同じ發達量を持つて居る者が一年やつたのミ、二年やつたのミだから、倍になるけれども、幼稚園の様に全體の生活力を……全體の發達を助けて行かうミ云ふ時に、幼稚園に來ないでも、幼稚園の初めを家庭で過してやつて居るから、所謂一年保育ミ二年保育の幼稚園效果の發達の方面に於ける差異ミ云ふもの、これを出して行く事は相當難しいのじやないかと思ふ。

誰方が一年保育——私共の方では、二年保育ばかりしかやつて居ないから、経験はないが——一年保育もあり、二年保育もあり、ミ云ふ幼稚園で、一年やつたのミ二年やつたのミ、斯う云ふ違ひが出て來た、ミ云ふお心づきのある方はありませぬか。

(大塚)大阪の住吉の帝塚山學園の、彼處の主任の先生に子供の描いた畫を見せて頂き、話を聞いて非常に愉快に思ひました。

一月頃に一年保育ミ二年保育の子供に鏡を見せて、自分の畫を描かせました。その描いたのは名前は裏に書いて、先生がそれを見て居られ、二年保育の方の子供は表現ミ云ふ點に於て優れて居る……一年保育の子ミ較べればですが。二年保育の方は表現が優れて居るに對して一年保育の子供は一寸、斯うませた様な子供は、模寫する方には優れて居るけれども表現の面白さが概してない。二年保育の方がよく表はれて居る。これを見られて、太郎である。花子である、かゞよく解

る。太郎、花子が寫眞には表はれ憎い、その子供獨特の、髪の毛がこんなになつて居るさか、眼がこんなださか、寫眞を貰つたよりは、畫を貰つた方が、自分としては嬉しい。詰り、二年保育の方が、幼稚園すれがして居ない。一年保育の方が幼稚園すれがして居る。

それから、阿佐ヶ谷の幼稚園の高崎先生からも、實はこの問題で聞いた事がありますが、二年保育の二年目の子供ミ、一年保育のそれミ同年齡の子供ミ綱引をさせる時に、二年保育の二年目の弱い子供ミ一年保育の組のかなり強い子供ミ綱引をするミ、初めの中は二年保育の子の方が引ずられて来るが、大概は二年保育の方が最後の勝利は占める。

そんな様な所が一つの特に違ふ所だミ云ふ事をお話になつた事を、聞いた事があります。そんな様な事でもあります。

二年保育を……幼稚園としては一年保育では短いので、是非二年しなければ、本當の保育の徹底は困難である、ミ云ふ事が云へるか何うか。若しそれが云へるミすれば、一年しかして居ない今のお話の様な、年齢を交せて居る様な所では、特殊の工風をしなければいけない、ミ云ふ事に就て、序でにその事を教へて頂き度いミ……

(應答者) 私は二年保育ミ一年保育に就てさうもその外に現はれて来る所謂、倍だけ何う、ミ云ふ形の事は難しいと思ひますが、二年保育を一年保育に對して強く主張する理由、色々ありますが、その一つは保姆ミ子供ミの關係、さうも私は一年ではその子ミ先生ミ充分親しくもなれないし、又その子を研究するミ云つた様な事が一年では出来ない。これが一つの大きな理由です。これはその幼稚園ミ云ふものを、幼稚園へ來たから子供の能力がこれだけ進み、幼稚園に來ないからこれだけ遅れたミ云つた様な事もありませうが——當然教育を受けて居りますから、能力が進むのでありますから——其處にのみ幼稚園の特色をおいて居るのではないのでありますから。

子供の方から云へば先生を親しむし、さう云ふ體驗を得るのに一年ではいけないと思ふ。殊に皆さんの中にさう云ふの

がありましたら色々、おさしはりもありますし、御苦心に觸れ過ぎますが、よくたつた三月來るゝか四月來るゝか云ふ様な子供がありますが——一般の市内の幼稚園では……さう云ふのはさうも私は所謂一つの教育團體、あゝ云ふ仲間に這入つて來て一人の先生に一寸世話になつて、三月かそこらで出て了ふ云ふ經驗は子供に持たしたくない。三月では教育出來るの出來ないの云ふ、何か指物師が註文さる様な仕事の上の關係でなく、もう少しみっちりした體驗を、彼處で與へる爲にはさうも二年欲しいと思ふのです。

それからもう一つは若し幼稚園でもつて居る機能、能力を養ふ、云ふ事に重きをおくのでなく、生活態度云ひますかね。そのみんなさいつしよにして居る。人の間に居つて養はれて來る、その生活態度云ふ様なものを養つて行くに就ては、これは私一年保育の子供二年保育の子供では大變に違ふだらうと思ふ。教へる云ふ事が出來ないもので、實際の生活の中に自ら把握されて行く、教育効果云ふものは年を重ねる程、よくなつて來るのではないかと、斯う思ふのでありますから、まあこの御質問は違つて、二年保育の効果論になつて來ましたけれども、まあ其處でおいておきませうか。それからその次の御話は「子供と一緒に遊ぶ事を好まず、先生さばかり遊びたがる。殊に例へば何時でも私にくつついて、おてゝを繋ぐさか、袂を持つさかして居りますさ、すぐだつこして呉れ云ふ様な子は何う云ふ風にしたらいいでせうか」これは少うし先生がよすぎるんでせうか。やさし過ぎるんでせうか。さうも先生の方が、折角ついて來ます子供を離す、云ふ方法を研究する工風も難しんでせうな、離す……時々知らぬ所を抓つて見るさか、脇鐵砲をくれるさか、離す方法を研究する事が難しい。殊に先生について來る事は、その事自身は大變にいい事ですから、その子の氣持さしていい事なんです。これを離す工風は出來ない。殘る問題は同年齡の子供の中に這入る、そつちの興味が足りない、云ふ事でありまして、先生さくつつく事が悪いのじやなくて、同年齡の子供と一緒にならない云ふ事が悪いのですから、そ

つちにつく機會を造つておおきになつたらいいと思ふ。その機會を造つて行くのに、みんなの中にたゞ押出してやつたつていけませぬが、私はこんな事を思ふのですが、その子供の爲には先生は……さうでなくてもさうなさるのでせうが……先生自身がその子供のグループの中に、その子をつれて這入つちまふ。先生も先づ子供の仲間に這入つちまつて、先生にくつついて居ても先生らしくもない、何時の間にか這入つて行つて了ふ。さういふ方針はどんな風なものかしら、と思ふ。「私の方に來ないであつちへ行きなさい」つて云つたつて、無理だと思ふし、先生が子供と一緒に遊ぶ、そんな中にこの子がずつ——ご連絡されて行く。斯う云ふ風な考へ方じゃないかと思ひますが。……

その次に斯う云ふ問題が出て居ります。關聯する事と思ひますから。

「保姆自身子供になりきつて、子供の世界に入り込んで一緒に遊ぶ保姆」さう云ふ保姆……なりきり保姆……さう云ふ保姆「一段上」に申し變でございしますが、遊びの仲間でなく、靜かに子供を見詰め乍ら、よき友である保姆、その人の性格によつて違ひますが、前のものゝ方が後のものよりも子供に喜ばれます。何方がいゝんでせうか」。

これを二つに分けて……この問題を讀みまして、保姆云ふものにはこの兩方の任務があるんです。この兩方の任務が一人の保姆にあるんですから、其處でこの問題が却々味のある問題になつて來るんじゃないかと思ふ。

「一段上」に申し變でございしますが、お遊びの仲間でなく、靜かに見詰めて居る保姆なんだがこの文句だけで讀むと妙におたがい、保姆の様になりますけれども、併し斯う云ふ事も必要であります。子供の中に交つて、顔は段々子供の様になつて、子供の性質を見詰める事も、觀察する事も、全體を色々考へる事も何もしないで居る云ふだけでは濟まぬでせう。私なんかゝ例へば保姆さんが子供の中に這入つて本當に遊ばなくちやいけない、或は子供と遊べるか、子供に遊ばして貰ふ程にならなければいけない、こんな事を申しますのは、それを獎勵して居りますのは、其處に元來、子供

達を觀察する、研究する爲に……。「一段上に云申す變でございますが」それが任務であるから、兩方保姆に含まれて居ると思ひます。若しも、併し何うでせうか。仲間になる云ふ事、なしにたゞ上から見詰め乍ら子供のよき友達である云ふのは一寸難しい相談ではないかと思ひます。ですから矢ッ張任務としては靜かに見詰めるのが任務で、幼稚園生活としては子供の中に這入らなければ出来ないと思ひます。たゞ仲間に這入る云ひますが、此處にも書いてある様に、その人々の性格によつて違ふばかりでなく……性格はよくもお書きになりましたが……年齢云ふ字も欲しい様に思ふのです。若い人が仲間になりきれないで、上から見詰めて居る云ふばかりならば、保姆の任務としてばかりでなく、その人の若さを疑ひます。

それから年齢云ひますか、老巧云ふか、所謂經驗を履んで來られます、別に上から見詰めて居る云ふ譯じやないんですが、その仲間になる云ふのが、何もその子供の様にゲラ／＼笑つて、子供の様にバタ／＼跳ねたりしないといつても、子供の方から見まして仲間になつて、呉れるんです。仲間になる云ふのが、一緒に轉んだり、キャ／＼云ふのが、仲間になつて居るんだと思ふ人、其處に座つて、下されば、仲間になつて、下さると思ふ……感じられるものと思ひますから、老巧な人でありますれば、敢へて不精になれ云ふのでなく、子供ミキャ／＼騒いで居るばかりでなくともいゝ。所が若い人がさう云ふ風に上から見て居ります。見詰めて居る云ふ風な事になつて、子供の中で、向ふが若い人として求めて來るその要求に少しも報いる事がなかつたならば、そりやあいゝ保姆じやないでせう。それから又老巧なるが故に外から見では仲間になつて居ないで上からお見詰めになつて居る様だが、これもいゝ工合に解釋して下さいまして、不精でも横着でも、年の巧は樂なもんだ、ミ斯う云つた様な行き方は、これは濟まぬ事になりますが、私は其處を、解釋して、段々、熟達して來ます、さう皆んな子供と同じに保姆が遊ばなくとも、子供の方から仲間になつてくれる様

な氣持を味はれる様なものになつて來るのではないかと思ふのであります。これは性格にもよりませうが、寧ろ保育の熟達、こ云ふ事によるものじゃないか、と思ふのであります。もう一度申します。仲間になるこ云ふ事は絶対に必要な條件であります。仲間にならないで、たゞ上から見下して居るのは實に變です。この仲間になり方に色々あるこ云ふ事は認めておきたい。姉さんと一緒に散歩に行く子供の喜び、お母さんと一緒に散歩に行く喜び、兩方自分と一緒に行つて下さるのですけれども、工合が大變違ふのでありますから、さう云ふ差別は其處に認めてもいいと思ひます。

(質問者) 前の問題でありますが、子供が獨占しなければ氣持が悪い。そしてブランコに乗る様に仕向けて、上げましても、先生に押して頂戴こ云ふ。砂場を致しますにも、先生お山を作つて頂戴、それから御本を読みます時にも自分が先生の傍で讀んで貰はなければ氣が濟まぬ。他の方が参りますこ、これが氣になるらしく、お遊戯を致します時にも先生の傍でおてゝを繋がなければ氣持が悪い。

(應答者) それがさつちでせうか。先生の……自分が苦心して工夫するより、先生に押して貰ふ。お山を作つて貰ふ。大人の力を利用する爲に先生を……斯う云ふ様な理由で……。

(質問者) 先生を自分の傍におき度い。

(應答者) 何でもさう云ふ人がありますな。濃厚なる人ですね。これが私は情が濃厚な方ならば……さう云ふ人なんです。さう云ふ性質なんですからいゝも悪いもないんです。けれども先生につくこ云ふのは、先生を利用して自分が樂をしようこ云ふのはよくないのですが、先生に親しまふ、こ云ふ方から行くならばそれは悪いこは云へない。情の少し「いやにしつこい人だね。さつぱりおしよ」こ云つたつて、みんな一緒になれない方が悪いのですからこつちを離す努力よりも、向ふに入れる努力の方が……先生が矢ッ張連れ子になつて這入つて來て、先生から離して……引越させようこ云ふ事になれば

……さそう思つてあんな事を云つて見たのでありますが。中にはまああれでせうな。「焼餅焼」もあります。自分が獨占したんじやないけれども、人が傍に来るにこんな(身振りにて説明)なつて来る事もありませうな。さうも併し折角さうやつて来る子供を全然情なくも出来ませぬですか。矢ッ張その子の要求に對して情なくも出来ないと思へば、明るく解釋して、こつちにつく事は、餘り責めないで、友達の中に入れない事を癒す……憂ひてやる方針は其處にあります。

その次の問題が、これは大變に組織立つて云つて居るんですがね、

一、三四十人一組で保育する場合、子供の生活を妨げないで統一出来る實際保育法。

二、一組全體を出来るだけ平均して向上せしめる保育法。

三、個人保育に關する所の適切なる本はないか。

これは實に、一人々々の子供の指導法とか、或は特殊兒童にお困りになつて居る問題とか或は保育項目のそれ々の取扱ひ方ではなく、幼稚園生活形態に關する問題をすつこゝに出されて居る様な氣がする。三四十人一組……何處でもさうありますが。その生活を妨げないで統一する實際保育法、これは、逆に言つて見るに、統一させようとする子供達の生活を妨げるに云ふ斷定に云ふ程でもないでせうけれども、さう云ふ意味合がこゝに於て来る。統一しようとする子供達に妨げないで統一するに云ふ様に私には讀めて來ます。そこで問題は、子供の生活を妨げていゝ事はありませぬが、妨げる妨げないに云ふ事は、分つて居る事ですから、その統一出来るに云ふ統一の考方……若し統一に云ふ事を、フォーマル、形式的統一で行かうと思へば、子供の生活を妨げないで統一する事は難しいと思ふ。難しければこそ、吾々が、所謂生活形態の問題に苦勞するのでありますが、所謂統一出来なくても生活形態として行ける統一じゃないけれども、生活形態が滅茶苦茶になつて居なければいゝんだと、斯う云ふ風に考へて頂かなければ、この問題は解決出来ないと思ひますが、ま

あ出題者も、統一云ふ事を、さう強くお思ひになつて居る譯でもないでせう。相當ちらばつて居りましたも、子供がよく生活して居りや統一だ極端に云へばさう思ふのであります。

「一組全體を平均して向上させる」さうも、全體が統一云ふ事が大變について居る様に思はれますが「一組全體を出来るだけ平均して向上させる」……言葉じりをおさへる譯ではないけれども、生活全體を向上させて行く、換言すれば、一人々々の生活が向上し、グループが向上し、全體がちぐはぐに向上して行けばいいと思ふが、これを出来る丈平均して向上させよう云ふ事になるさ、可成り難しいと思ふ。平均云ふ事を……若しも或部分だけが向上して、或部分が向上しないでは困るじやないか、云ふ意味で平均云ふ字を使つて居るならば、充分諒承する、尤もと思ふ、けれども私は、あの一組の中で、非常に向上して行く子供さ、それ程向上率の激しくない子供がある事は免れないと思ふ。尤もそれをいい加減に利用して、仕方がない言つて平氣にしちや困りますけれども、昨年も申しました訓育、子供の性質に依つて違つた訓育的效果が現はれる。こゝを平均したい云ふ考へ方が無理じやないかと思ふ。その、統一云ふ平均云ふ組全體、云ふ處に重きを置いてお考へになつて、無理をお感じになつて居る證據ではないかと思ひます。

第三に「個人保育に關する所の適切なる本はないか」さありますが、私は何時も申上げる如く、組云ふものは組で、個人云ふものは個人で保育としての取扱ひは何うしてもその中から色々グループの關係で、もう少し自在な、きつぽきつぽして行くのであります。組にあらずんば個人、個人が組か、云ふ様に分けて行く行き方から、もう少し教育法が、實際的、生活的に進んで來て居るのではないかと思ふのであります。

これは、この題をお出しになりました方の心持、及び現在の幼稚園に則しての疑問の出方云ふ事は充分認めますが、組と個人とで保育の問題を見て行かうとする見方には、私は反對して居りますので、一寸それをお答へして置きます。

次にこれは、少し心配な子供の……困つた子供の問題でありまして、さう云ふ關係から、出題されました方のお名前及び幼稚園は、おあづかりして置きます。〔問題が二つありますが、一つは「一軒の家では、子供に全然お金を持たせない。或家では金を大變自由に持たせる。そこで、家でお金を持たせない方の子供が、お金をだらしなくあてがはれて居る子供からお金を貰つたり、それのお使ひになつて色々買物をしたりして困る。何うしたらいいか」云ふお話。これは問題が二つになりませう、本質的に斯う云ふ子供に金を持たせる事のよし惡し、云ふ問題、それは家庭でする事ですから家庭の方へ譲りましたとして、それから生じて来る實際の結果を幼稚園として何う裁くか、云ふ二つの問題になりませう。金を家で貰はない子供が、持つて居る方の子供から金を貰ふ。又、言ひ付けられて色々な用をする。これは、それだけのところで解決しようと思すれば、矢張りさう云ふ事を家庭の方に相談しまして、幼稚園へだらしなく金を持つて来る云ふ事を止める、或は、幼稚園へ持つて来るばかりじゃない、幼稚園時代に金を使ふ事を止める。そつちの方が第一の問題じやありませんまいか。それから、片方の子供の家へ、少しは金を持たして大盡ぶらしておやりなさい、云ふ事も出来ないから、これは、斯う云ふ事があつて困るから、金を使はせない様子に持たせない様に、云ふ事を家庭と相談しなければ、何うもうまく解決しますまいと思ふのです。

そこで今度は遡つて、子供とお小遣の問題になつて来るので、これは親から色々お尋ねを受ける事があると思ふのですが、私は原則としては勿論幼稚園時代に於ては、子供がお金を使ふ……自分でお金を貰つて買物をする云ふ事は必要がないし、止めた方がいゝと思ふ。小學校になつて來ますと、全然子供に金を持たせない云ふ事は、これは別問題で、私は寧ろ少しは持たしていゝと思ふ位に思ふのですが、幼稚園では、子供に金を持たせない方がいゝと思ふ。それは原則ですが、家庭の風に依りましては、そんな原則はさても適用出來ず、勝手にお金を與へられて買食ひをする子供があ

るが、幼稚園に来て居る場合に於ては——託児所の場合に於てはこれは難しいと思ひますが、——斯う云ふ風な事、即ち金を持つて幼稚園に来るなんて云ふ様な、幼稚園に關係を及して来る問題に就ては、家庭に充分嚴密に話して、持たせない様にする。それも寧ろ幼稚園の一つの任務だと思ひます。幼稚園が子供の家庭教育へ、さう一から十迄干涉して行く事は出来ませぬし、殊に實際問題に觸れて行く事は却々難しいけれども、然し斯う云ふ、幼稚園へ關係を及して来る問題に就ては、さう云ふ風にした方がいゝやないかと思ふ。

如何で御座います。斯う云ふ實例を他にもお持ちで御座います。幼稚園へ子供が金を持つて来る云ふ事……。餘りない事かと思ふのですが、持つて來たら、持つて來させない様にする。それで解決して行くでせう。

それからもう一つの問題は、これは、女の子で、これは却々面白い。「ちゃんとした家庭の女の子ですが（ちゃんとした、云ふのは財政的にもちゃんとして居る云ふ意味でせうが）甚だ困つた蒐集癖があります。それに一種の諧謔もまじつて居る様です。（これは面白い書き方です……）例へば自分の抽斗に色々のものを隠して置いたり、（これは普通の人が書いた、盗んで隠して置く云ふでせうが、それを使はないで斯う言つて居る）澤山の帽子をバケツに押込んで置いたりする。その場合帽子の型がこはれて困ります」。こはれる所じやない。大變困つた事と思ひます。其所等が却々面白く書いてあります。まあ、その帽子をバケツに入れる云ふ方はもう少し詳しく伺はなければ分らぬが、全然蒐集癖でせうな。帽子を盗むのではないでせう。これは蒐集癖の部に這入るのでありますが、或は帽子を隠す事に依て帽子の持主が困る、それを面白がる云ふ、蒐集そのものゝ興味よりも、もう少し質の悪いいたづらの方に屬しやしないかと思ふ。自分の抽出しに色々なるものを隠して置く、云ふ方はこれを物にもよりますが、蒐集癖であり、或は盜癖であるかも知れませぬ。所謂盜癖云ふ言葉に屬するのもかも知れませぬ。まあ、帽子をバケツに入れる云つた様な諧謔のまじつて居る方のものは、こ

これは實際帽子の型がこはれる位の話で、別に其子が後に帽子泥棒になる云ふ譯ではないでせうから、大した事ではないと思ふが、若し盜癖の問題を解釋して、盜癖と言はないで蒐集癖と言葉を和らげて使つて居ると思へば、盜癖として研究すべきであると思ふのであります。盜癖云ふのは幼稚園に於ても随分困らせられる事ですが、斯う云ふ惡癖は、その惡癖にも共通な様な工合に二つ大きな種類……言ひますか、場合がありまして、一つは所謂性格病理的な、變質的なもの、これはさう云ふ、病氣云ふにおかしいですけれども、何かさう云ふ變質性があつて、泥棒……物を盗む云つた様な事をする事が起る様です。これは何うも却々治らない。私は、非常に残念ですけれども、その變質のものから治して行かなければ却々直らぬと思ふ。所が、さう云ふ根本的な原因でなく多くは……寧ろ多くの場合は、所謂癖である。所謂、癖であつて、初め一寸其處等にあるものが、きれいだと思つて隠して置く。さう云ふ風な事が面白い事ですから、他人の持つて居る物を何時の間にか隠してしまつて置く。これは、物隠し遊び、ミでもすれば面白い事ですから、そんな事を、深い意味もなくやつて面白い云ふ。殊に、人が騒ぐものですから——騒ぐ事は非常に面白い。泥棒なんかでも言ひます。泥棒をして隠れて居て、警察の方で自分に眼をつけて探して居る云ふ事が新聞に出て居るミ、恐くなる事もあるが、面白いさうです。却々見付らぬ云ふミ尙面白く、時々交番の側を通つて見たりする程面白くなるものださうです。——それも面白いと思ふ。鬼ごつこをして居る時に、鬼の側を駈ぬけて見る興味、その興味が二度三度四度云ふ様に、一つの癖になつて了ふ。之は必ずしも性格の根本原因と言つたよりは、もう少し單純なものと思ふ。けれども此子は何うか分りませぬが、假に、抽斗に入れてあると言つた時に何うするか。這入つて居る物を見付けた時に何うするか。先生も、抽斗を開けて見て發見したのですから、これは何うも理を以て説いたつて、却々簡單には行くまいと思ひます。そこで、この所謂自分でも知らずに付いて居る癖を絶して行く方法としては、極端に……今のこの様ですけれども、二つの道があ

りはしないか。抽斗を開けて、其中へ物が這入つて居つた時に、先生が非常に驚き、非常に悲しみ、非常に憤り、何でも宜しいが、非常にやる。わざ／＼やるミ云ふミおかしいが、そこで先生が卒倒して了ふ。泣き倒れて了ふ。これは、何故さう云ふ事を言ふかと言ひますミ、今の様な場合に於て、軽い樂しみの様なものから知らず／＼やつて居るので、事柄は甚だ大變であるけれども、やつた本人は、非常に軽い氣でやつて居る。その軽い氣でやつて居る事が、如何に深刻な重大な恐る可き問題であるかミ云ふ印象を、キュー／＼ミつける事が必要である。抽斗を開けて、這入つて居るので先生が探偵の頭の様な驚きをして、よくない事だらう、分つて居るだらう」ミ云ふ、そんな事じや、絶して行く強い力にならない。そこで、先生が所謂卒倒して了ふ。するミ、子供なりに、その自分について居る癖を、先生が驚くからしまい、ミ云ふ様な事で癖が絶されて行くミ思ふ。

もう一つは、卒倒する代りに、もつミ朗らかに扱つて了ふ。抽出しを開けて「誰さん、此處に隠してあつた」ミ云ふ様に、隠匿的興味を朗らかな事にして了ふ。さうするミ一寸考へるミ、入れミいちや朗らかにしちや、樂々悪い事をしさうですけれども、さう云ふ事ではない。隠してあるのを先生が見付けて「これはどうしたんです」なんて事を言ふミ終ります。これをボー／＼ミ朗らかにしてしまふから、隠し興味が薄らげられて来る。癖の方は、私は、今の形で直して行くミ云ふ事も出来るが、斯う云ふ種類の癖は、何う云ふ癖が分らない。要するに、理を以て説くミ云ふ順序でない。實際のやり方で、非常に深刻にする。燃やしちまふか水をかけてしまふか、ミ云つた様な取扱ひが一つの道じやないかミ思ふ。少くもこれをつかまへて先生がそんなに驚きもしないでたゞ「その事たるやよくない事である」ミ云つた様な事じや癖は直るまいミ思ふ。家庭なんかで、小さい子供の盜癖は澤山ありますが、家庭なんかと同じ事で、随分親がそれを平氣で見てるミ思ふ。「そんな事をするミ地獄へ行つてよ」ミか言つて居る。帽子をバケツに入れた方は、他人の困つて居るのが面白い方の、いたづら

じやないかと思ふ。

それから其次の問題、「七歳の子供であります、智能のメンタルテストの指數計數が少い云ふのでありますから、發達した利口な子供ではない様であります、二言目には猥な言葉を發する、これは此子の問題はかりでなく、幼稚園で屢々起る事であります。猥褻な言葉でせう。これはよくある問題ですが、まあその猥、云ふのが一體どの位な猥な言葉であるのか。私が實際經驗します所の幼稚園の子供が使ふ猥な言葉は、さう大した事じやないでせう。警視廳で叱られる程の、風紀を亂す事は言はないと思ふ。幼稚園の先生は高尚な方が多いから、一寸何か言ひましても「まあ嫌」、云ふ事になるのですけれども、まあ私は、この猥な言葉云ふのは大した事じやないと思ふ。打ちやつて置いていゝ位の程度じやないかと思ふ。其子一人をすれば、禁ぜられて居る言葉を使ふ言葉の意味よりも、それを使ふ事の興味の問題じやないかと思ふ。それをきゝ流さないで咎める云ふ事も必要でせうが、却々難しいです。猥な言葉を子供が使つた時先生がヒツツきいた時に、そんなにふるへないで應揚に——面白がつてニコ／＼する云ふ事もないでせうが——そんな事をするじやない、言つて止めるのでありますが、知らぬ顔をして、きゝ流して了ふのもいゝじやないかと思ふ。

今のは其子供一人をして考へて見たのでありますが、幼稚園じやなく、子供の作つた言葉は世の中の流行語になりますから、非常に心配をするのであります。他の子供が段々その言葉を使ひ出す云ふ事になりますれば何處かで早く止めなくちやならない。その止めるに就きましては、（私は斯う云ふ風にして止めるには、色々言ひ聞かして止めるのです、その止めるに就ては）、「先生はさう云ふ言葉は嫌ひだ」云ふ事で、いゝか悪いとか云ふ教訓的態度で決めないで、先生嫌ひだ、その子が別に好きで云つて居る譯ではないでせうけれども、先生は嫌ひだ、云ふ事で止めて行くべきじやないか。道理を説いて、いゝ事、悪い事と説明するより、先生が好き嫌ひ云ふ事を根據として止めて行つた方がいゝ

思ふ。家庭なんかでも親はまあ理窟は兎に角、お父さんそれ嫌ひだ、お母さん嫌ひだ、ミ云ふ事で止めちまふ場合がいく  
らもある。それが如何にも自分本位に親が好き好みでものを云つて居る様でありますけれども、斯う云ふ問題はその方が  
いゝと思ふ。嫌ひな事を言つては非常に先生、不愉快だから、ミ云つて止めて行くのがいゝかと思ふ。それが、言はない  
方がいゝ言葉であるとか、さう云ふ事は下品な言葉である、ミか淫らな言葉であるとか、説明をつけて止める心算であり  
ますが結果としては説明をつけて行かない方がいゝかと思ふのであります。扱て、斯う云ふ言葉を幼稚園の子供が使ふの  
は多分大人から習つて來たのでありませうから、その言葉の種類によりましては、家庭の注意を要すべきかと思ふ。

ある處でこれと同じ問題が outcome として、そして其處は非常に高級な、キリスト教精神の交つて居る幼稚園であつて、「さう  
云ふ事で、いゝじやありませんか。淫らな言葉を使つたつて、こつちが思ふ程の意味のない事ですから」ミ斯う答へました  
所、「そんな呑氣な事を云つて居られない。實に聞いても不快で堪らない」斯う云ふお話であつたから、「それならば抓つち  
まつたら何うですか。擲るのは亂暴ですから、抓る位の事をやつたら……擲つてもいゝでせう」ミ云つたら、さうしたら  
ば、其處では擲るの抓るの、ミ云ふ事は餘りいゝこつちやないでせうから、私が如何にも亂暴な事を云つて居る様におこ  
りになつたのですが、その抓るミか擲るミか云ふのは、抓るの擲るのミ云ふ事を獎勵したのではないので、不快が籠つて  
聞いて居ていゝの悪いのじやなくて自分が嫌だ、ミ云ふ氣持が出て來て、まあ、嫌だ、いゝ加減にやつても駄目ですから押  
し方が、彈力がつきやあ擲る事になります、口を塞ぐつもりがひよつミ手がお尻の方を抑へた。……淫らな言葉を淫らな  
意味で話して居るのではないのでありますから、皆んなが何だかにやゝ笑ひましたり、先生が叱り乍ら、その子を止め  
ておき乍ら、先生同志で「あの子がこんな事を云つたのよ」ミ云ふミ「悪い事だけれども、面白い事かな」ミ思ひますから、  
極端に先生が嫌ひだ、ミ云ふ事で押通して行つたらいゝと思ふ。先生の嫌ひな事なら尙やらう、ミ云ふ子が來たら何うし

よう、ミ云ふ話が出ますが、さうなつたら私が免職するか、先生が免職するかになりますね。言葉だけ出したのは子供にしては大した意味はないので、「先生が嫌ひだ」それが面白いなんて子は私、その先生ミ云ふものゝその子に與へて居る印象、實に威嚴のないミ云ひますか、親しめないミ云ひますか、さう云つた様な氣持がするのです。まあこの問題はそんな風に考へます。

それからその次の問題はずつミそれミ變りまして、やゝ保育學的な問題でありますが、「一年保育ミ二年保育を已むを得ぬ關係上、一緒に取扱つて行く場合、これは幼稚園令の建前から言ひますれば、年齢によつて區別して居ます。それであ一般には旨く行く筈が行かなかつたり、或は二年保育の二年目の所に新しく這入つた子を入れて行く。その場合の取扱ひ……」ミ云ふのでありますが。

お名前が上げてあるのを、敢へて申しませぬが、その方は、それミなく御聞きを願ひ度いミ思ひます。

二年保育で二年目になつて居る所へ新しく入れて……新入の子供を入れて……行く、ミ云ふ事は、これは珍らしくない事ではありますが、私の幼稚園ではさう云ふ事がありませぬから、機械的にきちんミ行つて居ますが、當り前の幼稚園では、途中から色んなのが交つて来るミ思ふのです。詰り極端に言ひますれば、一つの組の中にその幼稚園のずつミ前から續いて居る古參も居れば、中古るも居れば、新まいも居る、ミ云ふのが、普通の幼稚園だらうミ思ふ。これは已むを得ないミ言へば、已むを得ないのでから、一々氣にして居てはさう云ふ幼稚園の場合は何うにもなりません。

さあ、其處でこれも一種劃一的にその子供達を集團的に取扱つて行かうミするミ、非常に難しい問題になつて來るのではありませんが、組は組でも色々な考へ、色んな子が居て、色んな話が出て、構はない、ミ云ふ幼稚園の建前から行けば、それでいいミ思ひます。殊に新しく這入りました子供が、少うし、斯う、古くから居る子供に引ずられて行く場合もありま

せうし、新しい子供が一緒に旨く遊びませぬから、退け者になつて居る場合もありませうし、さう云ふ事は理想的ではありませぬけれども、別に劃一にならなければならぬ、ミ云ふ極<sup>キョク</sup>りの様なものを豫め……極めておく、ミ云ふ事が、大體に於ける問題でない。色んな人が居るから、色んな事が行はれて居る、ミ云ふ事で結構じやないかと思ふ。この區域でお答へする、ミ云ふよりも、劃一的に考へる、ミ云ふ事を本體として行けば、これが大變に問題になりますけれども、幼稚園では、組、ミ云ふものをもつミ自然に選んで、その中に色んな仲間が居る、ミ云ふ事を本體として行けば、まあ大して特別な場合でもないか、ミ考へるのであります。

それからその次に「製作の問題に就て、幼児は模倣力が強いから、保姆の示した一樣のものを作らしても喜んで居る。だから幼稚園の手法はそれでいゝんだ、ミ云ふ意見ミ、幼児が勝手に色んなものを作つた、その時に應じて先生の方では指導して行くのミ、何方<sup>ドウチャ</sup>がいゝか」。斯う云ふまあ話であります。

これは先程の私の文部省講習のお話の中で自然に申した事であります、誘導的保育ミしては出来るだけ子供に勝手に作らして、その中から所謂、充實指導をして行つたり、或は誘導して行つたりして、もつて行く。初めから「これを作りなさい」ミ示す行き方でない方が生活的な保育の特色を發揮する所以だ、ミ斯う思ふ。併し一般の論ミして、あゝ云ふ風に、極く本格的な趣旨を申上げました。けれどもさう凡て一切、何時でも原則的に發展して行くミも限りませぬから、子供は小さい子供、色々な氣持がありますから、先生の作るミ云ふものを持つていらして、それを見て、作り度くなる、ミ云ふ場合が起つたつて、それは構はない。唯その先生の作つたものを見て子供が作つて行くミ云ふ場合に、さうせそれを作らせ様ミ云ふ腹で先生が居りまして、これを作れ、ミ斯う云ふ前に、簡単な命令で示される前に、師範的にお示しになる前に、まあ、一寸その前に、餘裕、ミ言ひますか、閑<sup>ヒヤ</sup>をこつたらいいと思ふ。先生の作つたものを子供達に「作れよ」ミ云

ふのではなく、見せておやりになる。先生が御作りになつたものは、先生が非常な興味をもつて居るのでありませう。子供が作るものを先生に見せに来るこ、同じ興味で、先生がさせ度いこお思ひになる様な……「御覽なさいよ、豚が出来た」或は「御家が出来た」「椅子が出来た」見せて、そして必ずしも「これを作れ」云ふのではない。少うし其處の所ベテンの様な行き方がありますが、必ずしも作れ、云ふのではないが、「面白いじゃないか」「見せて行つて、それが子供を誘つて、子供が作り出して行く。必ずしも子供の生活の中から引張つて行くものではありません。プロゼクトで誘導して行くのはありませぬが、さう云ふ場合だけで行けるものであると思ひますさう云ふ事であつても構はないと思ひます。一寸この場合は何かものを見たら面白くなつてその畫を描く、云ふのと同じなんですから、お手本の畫、先生のお作りになつたものを見て、「先生、私も作りたくなつた」、云ふのですから、それで構はないと思ひます。この御質問に對して、保姆の示したものによつて、子供が作り出しても構ひませぬし、或は子供が勝手にものを作つたのを誘導なさるのが本體と言へますけれども、言へますけれども先生の作つたものをもこにして、子供が作つて行く。それには先生が一寸、示し方のこつこでも言ひますか、その手を一寸握む事で出来るものじゃないかと思ふ。私の云ふのはたゞ何云ふ事なく「これを作るものである。これが今日の保育項目に斯う出て居るから、是が非でも作つて行かなければならぬ」云ふのはどうかと思ふ。先生のお作りになつたものを見せて、それなら、云ふので子供がやる、云ふ事は勿論、咎む可きでないと思ふのであります。

それからその次の問題は、群馬縣の方から出て居りますが、「無口で一切ものを言はない子供の誘導法」これは幼稚園に遺憾作ら、ちよいと起ります事實であります。一寸此處で皆さんに……何うですか？皆さんの幼稚園で無口で一切ものを言はない子供、ありますか。一寸手を上げて下さいませぬか。……九人……その無口な子供を有口になすつた御經驗、

ありませぬか。

〔質問者〕早呑込みに可笑しな様な話でございますが、お父さんならお父さんが何處に御勤めになるか、お祖母ちゃんがお在でになるか云ふ様な、幾分解つて居ります事に就て子供と語り合ふにします。始まりの中は無口の子供ですから、唯お首を振る位、お首を振るのが上等位でありました。それから時偶、餘ッ程自分の方から話かけ、それが段々に自分から話す様になつて一通りは……お遊戲の様なもの、これは又別でございますけれども一緒に致しませぬ。致しませぬで唯、見て居りますが、積木の様なものも、段々出来て来るに共に、語り合ひ、自分からもお話をする様になりまして、それから海水なんかに参りまして……〔聞きこれず〕段々喜んで話す様になりました。それでよく觀察して居りますに、何時の間にか一緒にお話する様になりました。お話なんか致しませぬのは、段々その様な工合で一緒に話が出来る様になりました。

〔應答者〕さう云ふお話よく聞きますね。何ふがちゃんに知つて居る事を、事實知つて居る事を聞いて見る。さうするに話の結果がつき易い、云ふ事があります。

毛利さんいらつしやいますか。これはもの、言ひませぬか。

〔毛利〕一つも言ひませぬ。

〔應答者〕何年間？。

〔毛利〕去年の十二月からお這入りになつたのですけれども、何度聞いても、お家の事を聞いても、何もお答へになりませぬし、こちらから聞くのに、答へられる様な事を聞きますに「ウン」しか、首を斯うして〔首を振る〕返事するだけで、何にも言はない……。

(應答者)他の事はしますか?。智能一般に不活潑ですか?。

(毛利)お仕事は他の子供よりよく出来ます。

(應答者)何かものを言はない子供を大勢、お持ちでございませぬか。特別な、伺ふお話ありませぬかな。私の家のはこんなのだ、……私なんかおしやべりばかりして居るものですから、無口云ふ事がこんど解りませぬ。……半年位待つたらいゝかと思ひますけれども、未だ解りませぬな。……十二月頃では。今に言ひませうな。中には二年間、三年間ずつと言はない様なお話を聞く事がありますが、斯うなるミ、随分大變ですが。未だ言ひませう。さうしておきませう……楽しみにしておきませう。言ふに相違ないと思ひますが、餘<sup>ア</sup>まりこの子は無口だ、ミ云ふ風に思つて、無口扱ひ……無口扱ひ、ミ云ふのは、お前は無口だから言ふまい……それが無口扱ひ……そればかりでなく「言へへへへ」ミ云ふのは、一種の無口扱ひですな。「あの今日はものが言へますか」なんて云ふのは一寸言へなくなつて了ふと思ふんです。で自分が無口である、ミ云ふ事を、無口のちゃんミ、札がついて居る人間……札つき……だミ云ふ事を意識させたら尙、言へますまいからな。私の話は萬事、相手が居ないんで旨く行き過ぎて困るが……向ふでひよつこものを言ふ様に……この子が無口で……ものを言ふか?「今日はあなたミ二人だけだから言へませうか」、ミか、あゝ云ふ手のこんだミ云ふか……「俺の口を開けやうミ思つて」……「やつたな」ミ云ふ感じの起らない様な、不用意なやり方はいやな事です、けれども、何か非常事件が起つたら、もの言やしませぬかな。何か非常な、例へば先生がよく卒倒しますが、まあ子供もびつくりする程先生がひつくり返るか、何うかしましてね、そしてひよつこ言へる。さう云ふ機會にもの言やしないか。今の向ふの知つて居る様な事を言つて見ても言はぬ、ミ仰有るが、その手でいけなければ、こんな事も澤山あるのですから、も少し、非常な事で伺ふが言はざるを得ない様な所にもつて行つて、それでひよつこ云ふかもしれない、さう云ふ手もあります。非常な事で、非常な場合に

向ふの子供が口をきく、ミ云ふ事は、何故口をきくんだ、ミ云へば、必要によつて餘儀なく口をきくんだ、ミ云ふのでなく、非常なる場合に、元來無口な人である、ミ云ふ事も忘れますし、人がさう思つて居る、ミ云ふ事も忘れて、さう云ふ感じが何處にもないですから、自然に口をきく。たゞ無口だとお思ひにならないで、言へなければ言はないでいゝ、ミ云ふ風な調子で、へう／＼としていらつしやる中に、何時か言ひませう。言つて貰ひませう。これも私は幼稚園だけから考へれば、無口だつて構はないと思ひます。ものを言はなければ、手技もさせない、ミ云ふ様な事をしないで、ものを言はなければ言はないで出来ます事を、／＼させてやつて居りますれば、それでいゝと思ふ。唯、問題は口で發表する、ミ云ふ事を本體として授業が進んで参ります小學校に這入る場合に困る。小學校に這入つて無口ではこれでやつて行けない、それで心配するのでありますが、幼稚園では、私は、これは例の多い場合ですけれども、左利きと同じ様に考へまして、餘り心配して他の精神の發達をたすけて行く事が缺けたり、遅れたりするまいと思ひます。さつさゝやつて行つた方がいゝかと思ひます。

毛利さん、その次のは……何ですか、發動力、ですか、非常に元氣で、自己の欲望を達せんとする方にばかり、傾いて居る子供、ミ云ふ事ですな。

この發動力旺盛にして、他の人を壓して自分の欲望ばかり達しやう、とするその子供が問題になつて來る、ミ云ふのは、何處が問題になつて來るか、ミ云へば、一つはこの欲望を／＼通させて行つたら、何處迄我儘な勝手な者になるか、ミ云ふ事、もう一つはこれを無理に抑へたら……抑へる事も出来ないでせうが……無理に先生の力で抑へたさしたら、却つてその子供が内部的に變な者になりはしないか、斯う云ふ風な所が問題になるのだらうと思ひますが、その欲望の種類が何う云ふ事になりませうかね。ものを貰ふ……何か……今になんかフレーベル館でお菓子をお呉れるさうですが……さ

う云ふ時にこれを出すやり方が……。

(毛利)人が遊んで居る時に……(聞きこれず)

(應答者)玩具<sup>オモチャ</sup>なんか自分がこつて了ふのですね。少うし手数が掛りますけれども、さあ、何うでせうかな。一寸満足さして、頭から抑へて了はないで、一寸満足さして、併しあの人も欲しいんだ、皆んなも欲しいんだ、ミ心の中から誘導して行く様な譯で行く、ミ云ふ様な方針で導いて行く事が出来ないでせうか。初めからずつミ抑へて了はないで、一應、心理的に欲望が満足するんです。さうして愉快も味はつて居ますから、それを味はつて居る時、その愉快を皆んなに分つ事を、させる。さう云ふ風に導いて行つては何うですか。その位の手ではいけませんか、却々。まあ 私は欲望、自己の欲望の強い、ミ云ふ事はいけない事ですけれども、形式的に云へば、勢力ミして非常に強い事ですから、「あゝあれが来た、隠れろ、逃げろ」ミか、抑へてやつたのでは、壓力を其處の所では抑へますけれども、主ミしてリードして居なければ、指導して居ない事になる。例へば兄弟が居りまして、其處にお菓子があつて、これは皆んな、私のだ、ミ云ふ様な慾張つた事をする時に、一應やつて了つて、さうして貰つて了へば、一應自己の欲望が満たされて、自分のものになつた愉快が満たれますから、それを今度皆んなにその愉快を分つ様に、ミ云つた様なやり方、それを繰返し／＼して行つたら、いゝんじやないかと思ふ。向ふの欲望の強いのを教育の力で抑へて行く、ミ云ふのは、少うし無理かと思ひます。

それからその次に嘘の問題が出て居ります七歳の女の子がよく嘘を云ふ。但しこれをお書きになつた方は、嘘ミ云ふ言葉は他に仕方がないから假に斯う書いたのである。嘘ミ云ふ言葉を此處に當嵌めるがいゝか何うかさへも、お考へになつて居るのでありますが、詰り解り切つた眼の前に解り切つた事を、嘘を云ふ、斯う云ふ子供はよくあると思ふんですが、多分この質問者が書いて居られる通り、一種のこの聯想ミ云ふ字が使つてありますが觀念が一寸した結びつきで他の觀念の

様な、類似觀念ですか、ぎん／＼飛んで行つて了つて其處で一寸その事が眼の前にある事よりも、それから飛んで行つた觀念の方が意識の中に強い位置をもつて来る。それを云ふ、ミ斯う云ふ態度ではないかと思ふ。これを拜見した所では、所謂自分の言ひ逃れて行く嘘であるとか、人を騙かして行く嘘ミは少し違ふと思ひますが。

(徳久) 實例を説明さして頂きます。七歳の女の子でありまして、この四月から幼稚園に這入りまして、その子供の家は勤人であるに拘らず、四月の半頃になりまして、自分の家はバン屋さんである、ミ云ふ事を主張し出しました。さうするミ、お祖母さんの家はあさり屋であるミ云ひ出したり、普通の子供が、飛行機に乗つて何處かへ行つた、ミ云ふ様な事は、一日か二日經つて忘れて了ふのですけれども、その子は可成長い間それを主張して居ります。それを私が突込んで聞きますミ、お父さんお休みの時は、斯う云ふ風にして小僧を相手にしてバンを焼くミか、お母さんが手傳ふミか詳しく説明します。事實お母さんにもよく伺つて見ますミ、さう云ふ事は全然ない、ミ云ふ話、親類にもさう云ふのがないミ云ふ話で、私が心當りと思ひますのは、あさり屋ミ言ひますのは、私達が稻毛に参りまして、澤山貝をこつて参りまして、その上御自分が御ミりになつた以上に澤山お母さんが買つてお歸りになつた事を知つて居ります。それからそのあさり屋ミ云ふ事を言ひ始めたのではないかと思つて居ります。それから、バン屋ミ言ひ出しましたのは、自分がお晝にバンを持つて來た時に一番初めに言ひ出したミ思ひます。さう云ふ事がございますし、又一方では私共が幼稚園の玩具を新しく買つて、おいておきますミ、「私が家から持つて來たんだ」ミ申しまして、私達が「それは幼稚園に買つて來ておいなんです」ミ申しても「さうでない」ミ云ふ事を強く言ひ張ります。

(應答者) 所謂、道德的嘘、ミ云ふのは言はないのですか。誤魔化して云ふのですか。……今のはやゝ文學的嘘ですが。實際にせめられて云ふ道德的嘘は言はないんですか。

(徳久) 自分がそれによつて徳をしやう、ミ云ふ嘘は未だ聞いた事がないのです。

(應答者) 一體に、興奮性の子供ではないですか。

(徳久) ……

(應答者) 不斷、話をして居る時は……こあさが乗り移つて来る様な、調子で……

(徳久) 別にさう感じませぬ。

(應答者) あれは、まあ、斯う云ふのですか。自分である事に非常に興味を持ちますミ、その興味を、何も非常に嘘を云はう、ミ云ふのではないのですが、その興味そのものにせられて、それを更に、次々に、面白く、強調して行く、ミ云ふ事はあるもんです。それは嘘ですけれども。さう云ふ心理であります。さうですね。勿論まあその話を、嘘だミ云ふ事が、眞實でない、ミ云ふ事が解つて居る時は、聞いてはおやりにならぬでせうが、それが嘘か何うか解らぬ場合は「さうか〜」と聞いて、のせられて居る場合もありますね。若し解らぬ時はさうも仕方がありますねが、何云つてゐるんだか、一つ〜それは嘘か、ミ云ふ譯には行きませぬけれども、解つた時には何うでせうか。「そんな嘘を言ふものじゃない」ミ云つたつて、恥しいミと思ひませぬでせう。自分が道徳的に嘘を利用して、何うミか云ふ、恥かしい考へがミでないのですから、暴露したつて笑つちまふだけです。やつて御覽になりましたか。嘘だ、ミ云ふ事をつきつけて見ましたか。

(徳久) 一番初め、あさり屋だミ言ひ出した時に「先生は昨日あなたの家の處へ行つて見ましたけれども、御門のあるぢやんミしたお家で別にバン屋でもあさり屋でもありませんね」ミ云ひましたら「えゝさうよ。本當は嘘だつたの」ミ申しました。

(應答者) これも非常に大きく解釋すれば、精神病の中に、さう云ふのがありますね、この嘘を云ふ……造る、ミ云ふ方よりも、何ミ云ひませうね。事實ミ云ふものに對する感じがはつきりしないんです。はつきりしないミ云ひますか、強く

ない、事實自分の家がパン屋であるミ云ふ方の事實が、はつきり強く自分に認識されて、認識される、ミ云ふ程の事でない、當り前の事ですけれども、さうも變へる事が出来ない。門のあるちやんとした家である、ミ云ふ事を、パン屋なりあさり屋なりに變へて行く。パン屋なりあさり屋等ミ云ふのは、その時に造つたミ云ひますか、何でせうか。そのも、この所がしつかりして居ないのでね。も、この所がしつかりして居ない、ミ云ふ事は凡て嘘をつく、ミ云ふ心理は、さう云ふものかと思ひますが。嘘を大きく二つに分けますミ、自己に對して實に嘘だ、ミ云ふ感じが、甚だ愉快な程、はつきりして居て人を欺く場合があります。それからもう一つは、人を欺くミ云ふよりも、自分自身が嘘ついて平氣な、言ひ換へれば、事實ミ嘘ミの差別に就て、矛盾に就て、何等の感じを持たない、正確に言やあ嘘の方はその時、起つて來たのですから當り前ですが、事實感ミ云ふものがはつきりしない。事實感がしつかりして居ない、ミ云ふ事を説明しますれば、自分の認識なり、自分の體驗なり、經驗なり、自分の今見て居る事に對して、自分の經驗に對して自己が忠實でない。自分には自分が忠實であつて、人を欺く、ミ云ふ嘘でなくて、自分自身がすぐに自分の認識を變へて行くのです。これは詰り、まあもう少し解り易い場合で云ひますならば、昨日言つた事をすぐ變へて行く場合がありますね。まあ明日は何時に何處で會ひませう。ミ約束して、明日になるミケロッミしてそんな事を云つたか何うか。或はつひ、斯う云ふ用があつて忘れた、ミ云ふ場合は、これは後から起つて來た事件で、そつちはすつぽかされた、ミ云ふ事は、已むを得ずすつぽかされたのですけれども、昨日の言葉に對して忠實性が、確實性が少い。その反對に一度守つて言つた事は、人に對して守つて行くのではなく、自己にそれを矛盾した、反對した様な事をするのは、自分に落付かない。これは今、一度言つた事さか、考へた事ありますが、それと同じ關係が今、自分の眼の前に出て居る事、自分の問題が何うである、ミ云ふ事實、さう云ふ認識する、印象する、所謂この黒い眼で見た事は、ミ云ふ事の反對です。詰り認識力がまあ觀念的に強いのでは

ないですから、それに對する確實性が尠い。忠實にもつて行く事が弱い云つた様な性質でせう。ですからこれはまあ、烈しく云へば精神病、斯う云ふのが澤山あります。男にも澤山あるでせうが、所謂、社交的な婦人なんかには澤山あります。さうも實に眼の前に見えた事をすらくく言つて居る。「實は昨日は斯うで、私の家では……」出鱈目を言つて居る。出鱈目を其處では向ふに合して居るのだから、自分で、さんさよくまあ違つた事が言へる云ふ程、平氣なんです。さう云ふ風にこの子になつちやあ、それは困るのですから、癒すには何うしたらいいですかね。

まあ一つは私解らぬですが、一つは叱つたつて駄目ですね。悪い事をして居るさ思はないのですから、所謂、手に持つて居るものを何時の間にか落した様なものですから、自己の言つて居る。自己の前に言つた事に對してしつかりした把住性が鈍いのですから、何時の間にか逃げてても平氣なんですから、惡氣でないから叱る譯にもいかぬ。叱るさ行ふ譯には行きませぬが、今おやりになつた様な工合に段々自分の出鱈目が出鱈目として通らない事を経験して行けば、それでいいにしても、嘘はつけないものだ、ミ觀念的に自覺する譯ではないですが、それを助長する事は止まるでせうね。併しこれも却々解らないですから問題はよく解りませぬけれども、（その他の場合には解らないですから、まあ矢張、斯う云ふのは、何かかうしつかりした色々の人生の経験さか勉強さか、いゝ加減な事を云つてもいい、正確を云つたら、先刻のお子さんの様に云つて了ふが、自分の方がちゃんくして居なければならぬ様な、ぎりぐりの生活體驗の中に置かれて居れば、もう少し事實さ云ふものに對する忠實性が養はれて来るかもしれないませぬね。さう云ふ全般的な教養で行くんじやないでせうか。必ずしも惡意でないが、生活全體の事實に對する確實性、忠實性が鈍いのですから、概して、恥かしいと思はないでせう。「嘘なのよ」云ふだけの話で、それだけの話でありますから、全體の教養で行くより仕方がありますまい。（了）